７．投資信託への期待・関心状況（回答者全体）

（１）貯蓄の運用方針

今後の貯蓄方法について最優先する考えとしては、「元本保証がされていること」が46.0％で最も高く、「利回り」が21.1％で続いている。

性別でみると、「元本保証がされていること」は男性より女性の方が高く、「利回り」は男性の方が高い。

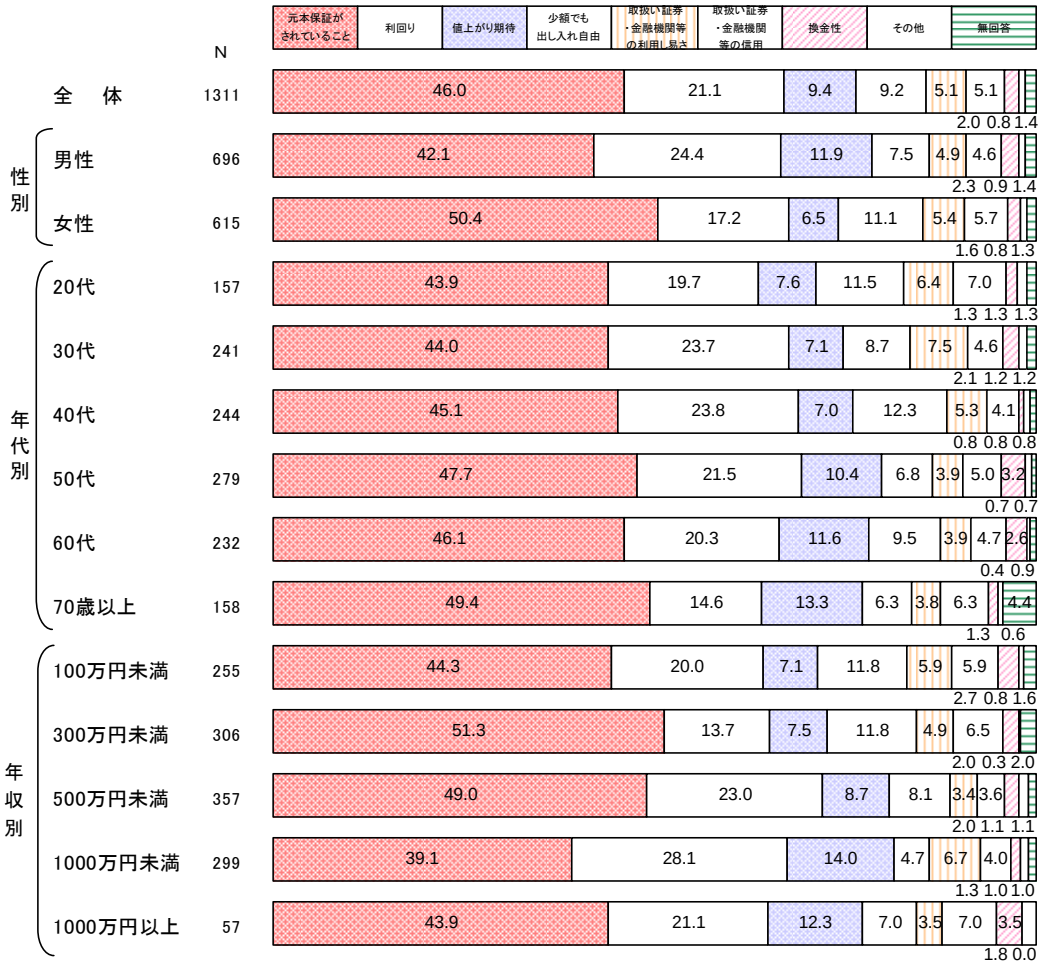
年代別でみると、70歳以上では他の年代に比べて「利回り」が低く、「値上がり期待」は50代以上で年代が上がるほど高くなっている。

年収別でみると、300万円未満、500万円未満で「元本保証がされていること」が他層より高く、1000万円未満では「利回り」が高い。

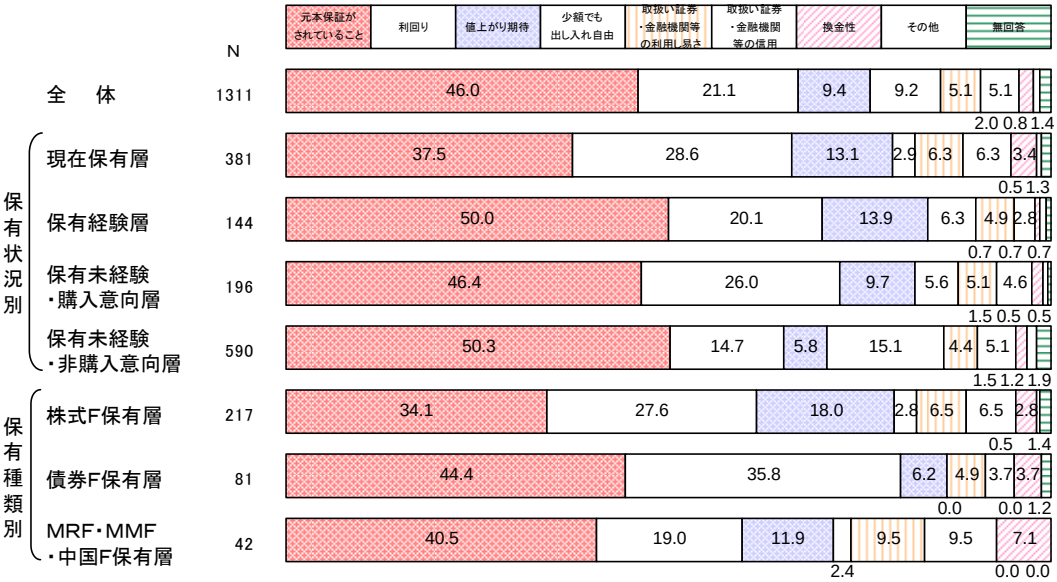
投資信託保有状況別でみると、現在保有層では「元本保証がされていること」が他層に比べて低く、現在保有層と保有未経験・購入意向層で「利回り」が高い。また、「少額でも出し入れ自由」は保有未経験・非購入意向層で高い。

投資信託保有種類別でみると、株式ファンド保有層では他層に比べて「元本保証がされていること」が低く、債券ファンド保有層では「利回り」が高い。

【貯蓄の運用方針／基本軸１（単数回答）】



【貯蓄の運用方針／基本軸２（単数回答）】



（２）現在保有している金融商品と今後の貯蓄に適した金融商品

①　現在保有している金融商品

現在保有している金融商品は、「普通預貯金」が 88.1％で最も高い。次いで「郵便局の定額貯金」(56.9％)、「定期預金」(51.8％)、「株式」が 42.4％と続いている。これ以下は、「国内の投資信託」「貯蓄型保険」までが 20％以上となっている。

性別でみると、男性の方が女性よりも高いのは「株式」、女性の方が高いのは「郵便局の定額貯金」「貯蓄型保険」などとなっている。

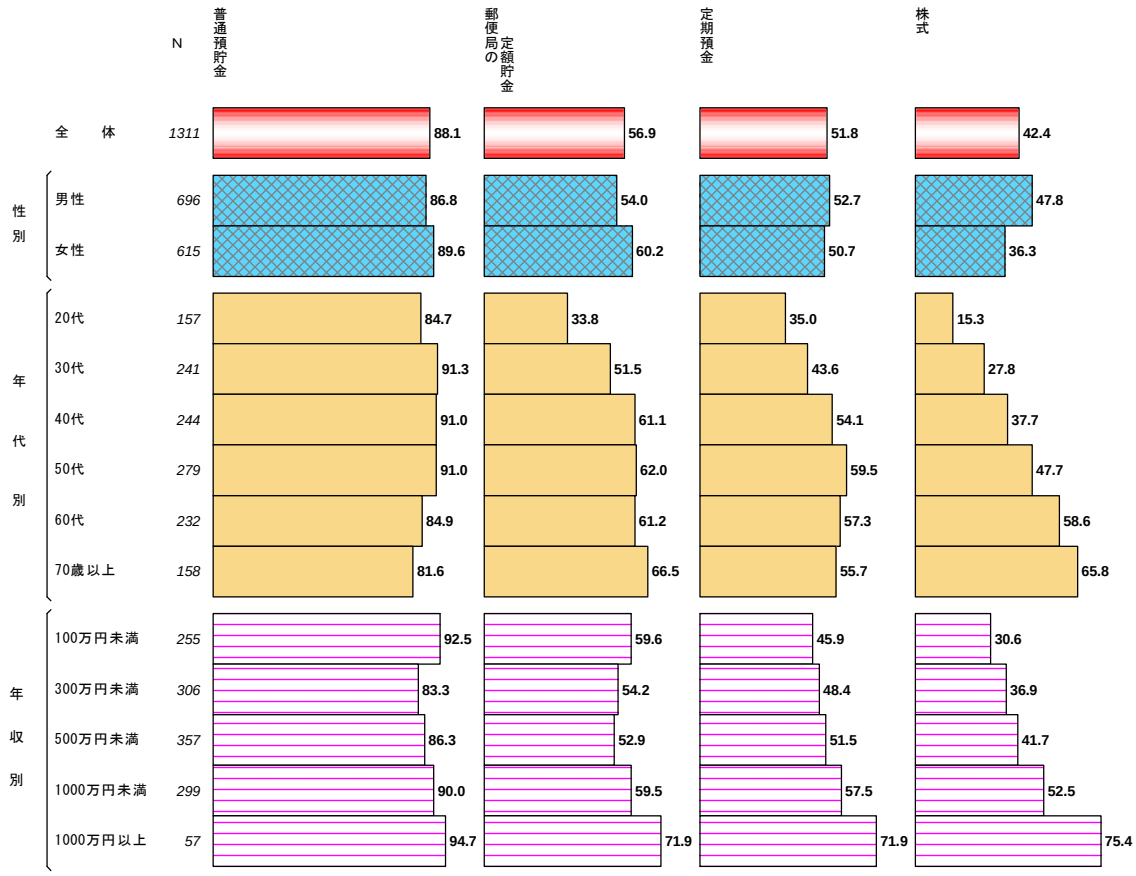
年代別でみると、30 代～50 代は「普通預貯金」が 90％以上となっており、これ以外に「貯蓄型保険」「財形貯蓄」も高い。また、40 代以上で高いのは「郵便局の定額貯金」「定期預金」であり、「株式」「国内の投資信託」などは年代が上がるほど高くなっている。

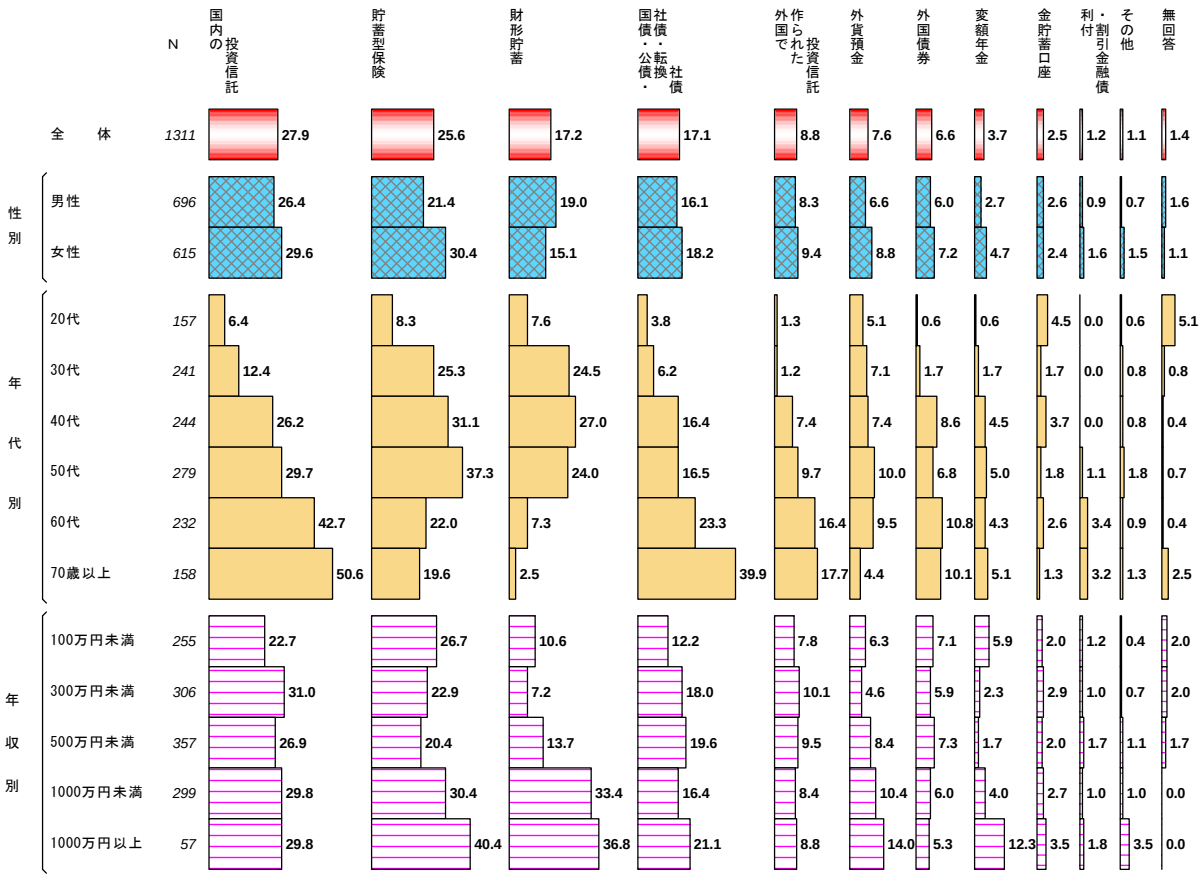
年収別でみると、年収が上がるにつれて「定額貯金」「株式」が高くなっている。

投資信託保有状況別でみると、現在保有層では他層に比べて、「株式」「国債・公債・社債・転換社債」「外貨預金」「外国債券」など投資信託以外の金融商品も高く、多様な商品を保有している様子がうかがえる。一方、保有未経験層では購入意向経験の有無にかかわらず、主な保有商品は「普通預貯金」「郵便局の定額貯金」「定期預金」「株式」「貯蓄型保険」「財形貯蓄」となっており、商品選択においては安定志向である傾向がみられる。

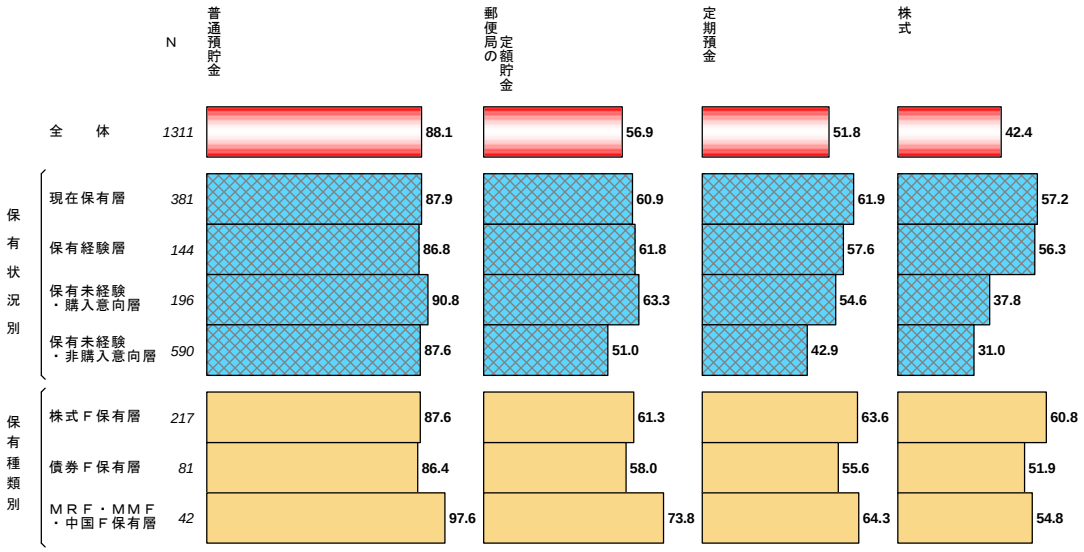
投資信託保有種類別でみると、株式ファンド保有層と債券ファンド保有層では「国債・公債・社債・転換社債」「外国で作られた投資信託」「外貨預金」「外国債券」などが高く、ＭＲＦ・ＭＭＦ・中期国債ファンド保有層では「普通預貯金」「郵便局の定額貯金」が高くなっている。

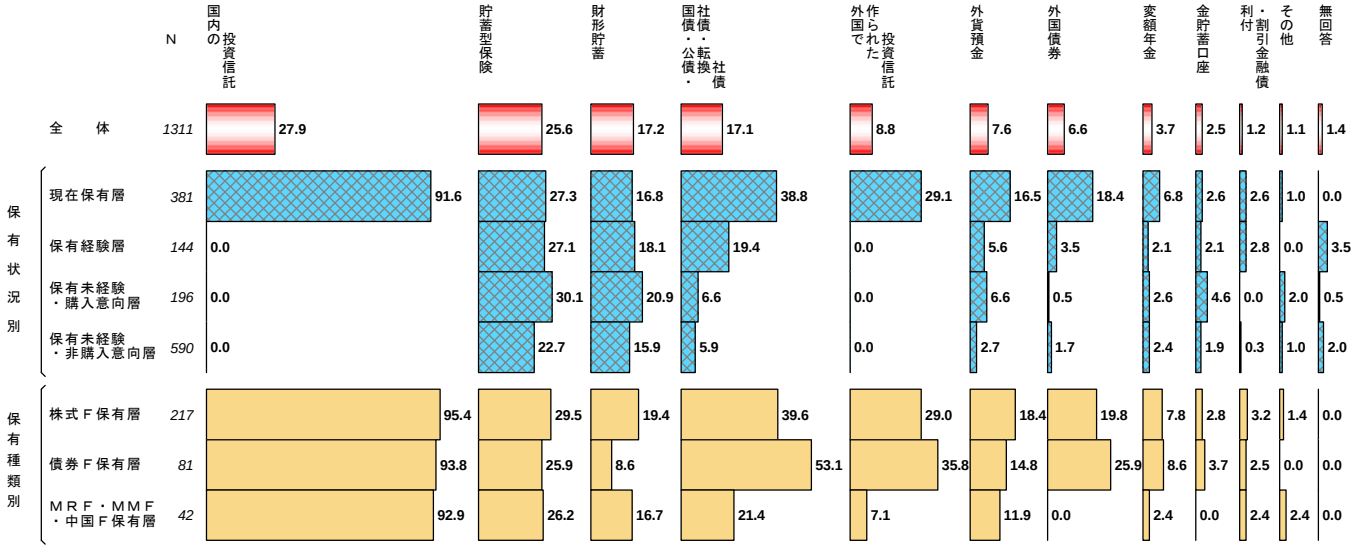
【現在保有している金融商品／基本軸１（重複回答）】





【現在保有している金融商品／基本軸２（重複回答）】





②　今後の貯蓄に適した金融商品

今後の貯蓄に適した金融商品については、「定期預金」が 45.2％で最も高く、次いで「郵便局の定額貯金」が 41.9％、「株式」が 37.0％となっている。以下、「国債・公債・社債・転換社債」(19.7％)、「国内の投資信託」(18.8％)が 20％弱で続く。

性別でみると、男性では女性に比べて「株式」が高く、女性では「郵便局の定額貯金」が高くなっている。

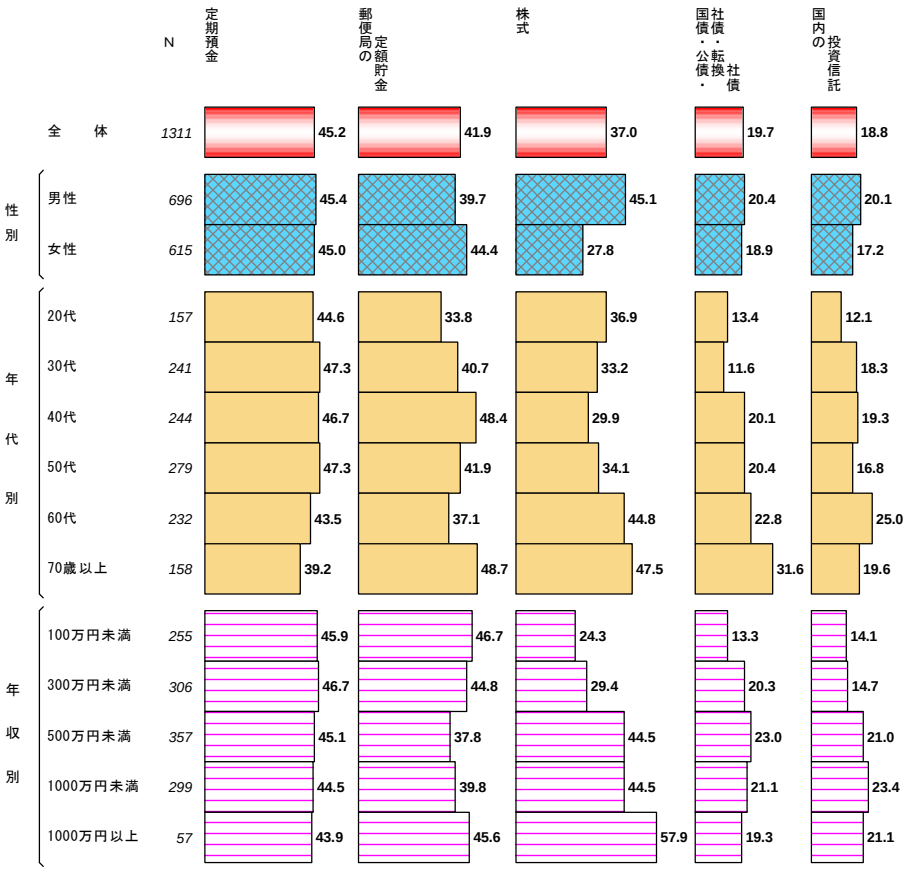
年代別でみると、60 代では他の年代に比べて「国内の投資信託」が高い。また、40 代と 70 歳以上で「郵便局の定額貯金」、60 代以上では「株式」、70 歳以上では「国債・公債・社債・転換社債」が高い。20 代～50 代にかけては「財形貯蓄」が高い。

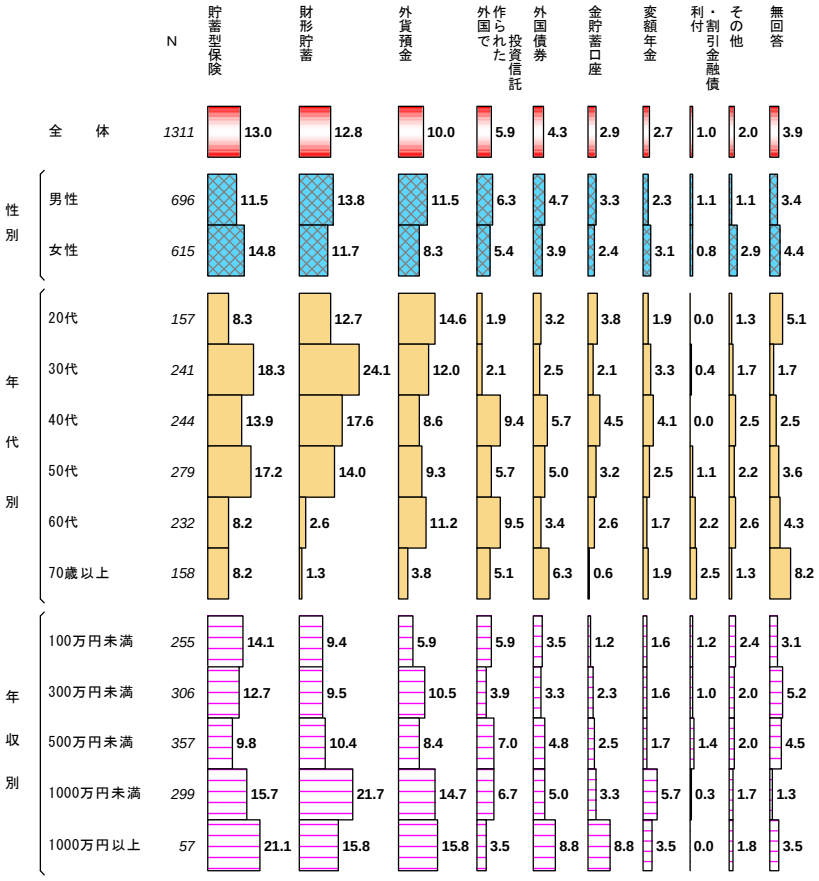
年収別でみると、300 万円以上では「株式」が高く、1000 万円未満では「財形貯蓄」が高い。

投資信託保有状況別では、現在保有層と保有未経験・購入意向層で「国内の投資信託」が高い。また、現在保有層では「外国で作られた投資信託」、保有未経験・購入意向層では「株式」も高い。一方、保有未経験・非購入意向層では「定期預金」「郵便局の定額貯金」「株式」「貯蓄型保険」「財形貯蓄」などが高く、現在保有商品(70 ページ参照)と同じ傾向を示している。

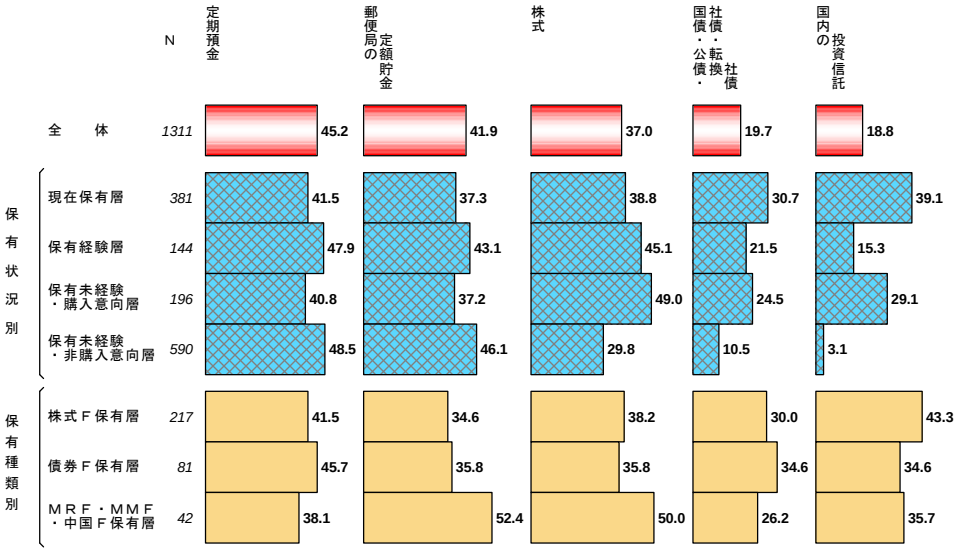
投資信託保有種類別では、株式ファンド保有層で「国内の投資信託」が高く、「外国で作られた投資信託」は株式ファンド保有層と債券ファンド保有層で高い。ＭＲＦ・ＭＭＦ・中期国債ファンド保有層では他層に比べて、「郵便局の定額貯金」「株式」が高い。

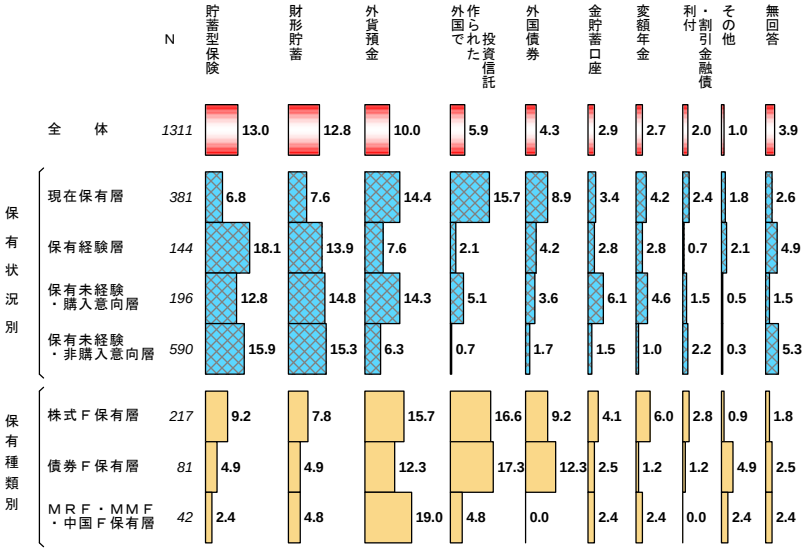
【今後の貯蓄に適した金融商品／基本軸１（重複回答）】





【今後の貯蓄に適した金融商品／基本軸２（重複回答）】





（３）希望する投資信託商品とその方法（投資信託関心者）

①　今後購入を考える投資信託の商品内容

今後の貯蓄に適した金融商品として、「国内の投資信託」「外国で作られた投資信託」のいずれか１つを選んだ人に対して、今後購入を考える投資信託の商品内容について尋ねたところ、「安定重視型」が 61.3%、「利回り追求型」が 21.8%、「値上がり益追求型」が 13.4%となった。

性別でみると、男性では「利回り追求型」が女性よりも高いが、女性では「安定重視型」が 70%以上を占める。

年代別でみると、70 歳以上で「安定重視型」が高く、40 代～60 代にかけては「利回り追求型」が高い。

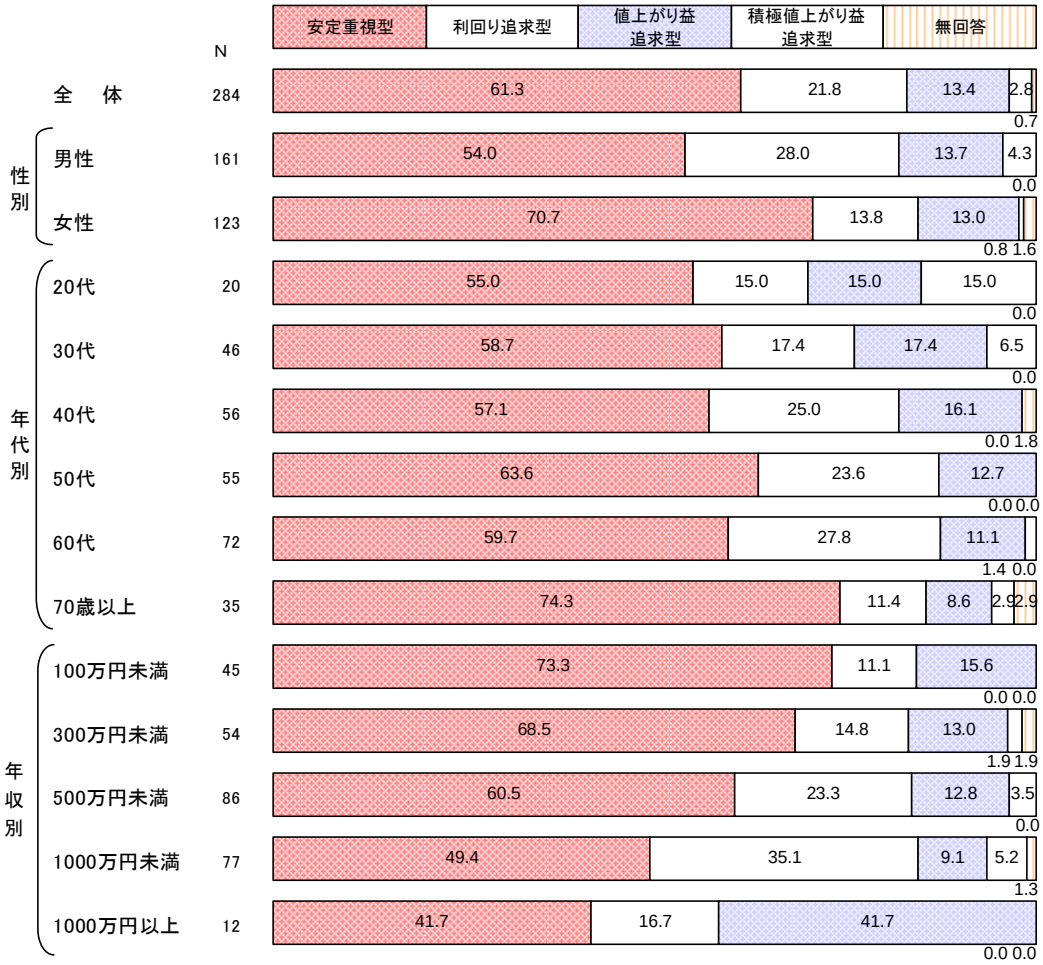
年収別でみると、年収が低いほど「安定重視型」が、逆に年収が高いほど「利回り追求型」が高くなる。

投資信託保有状況別でみると、現在保有層と保有経験層では「安定重視型」が高く、保有経験層を除いては「利回り追求型」も高い。保有経験層と保有未経験・購入意向層では、他層に比べて「値上がり益追求型」も高い。

投資信託保有種類別でみると、株式ファンド保有層では他層に比べ「安定重視型」は低く、「利回り重視型」が高い。

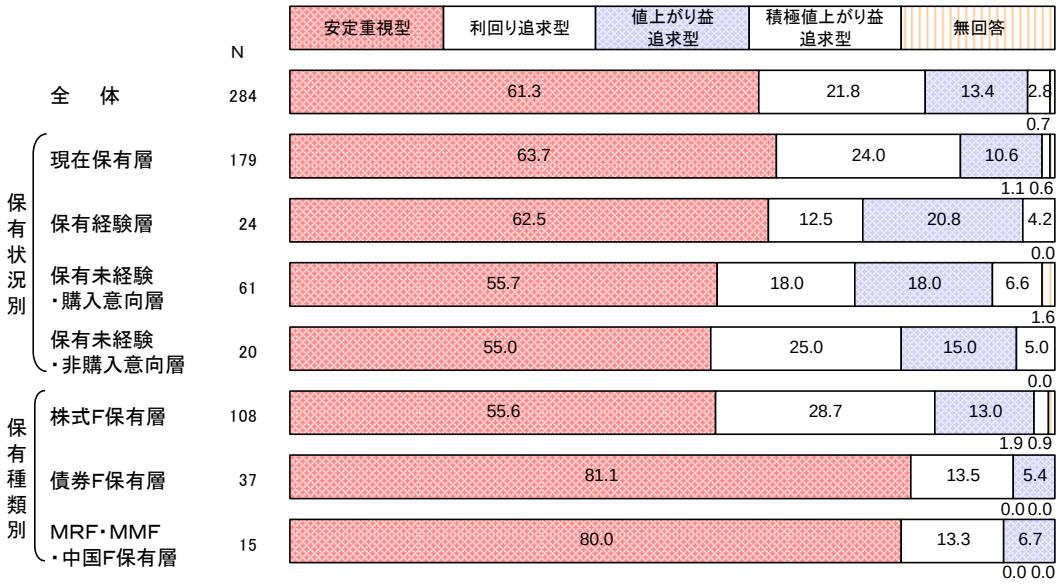
【今後購入を考える投資信託の商品内容／基本軸１（単数回答）　－投資信託関心者】

※Ｎ数（サンプル数）が少ない項目については、データをみる際に注意が必要。



【今後購入を考える投資信託の商品内容／基本軸２（単数回答） －投資信託関心者】

※Ｎ数（サンプル数）が少ない項目については、データをみる際に注意が必要。



② 投資信託の購入意向商品

今後の貯蓄に適した金融商品として、「国内の投資信託」「外国で作られた投資信託」のいずれか１つを選んだ人に対して、今後新規投資または追加投資(増額)を考えるとした場合の購入商品を尋ねた。最も高かったのは、「国内株式・債券バランスファンド」(30.3%)であったが、「国内株式ファンド」(29.6%)、「国内債券ファンド」(28.9%)が僅差でこれに続き、以下、「ＭＲＦ・ＭＭＦ・中期国債ファンド」(26.4%)、「外国債券ファンド」(23.6%)が20%台となっている。また、「不動産投信」「外国株式ファンド」も10%台となっているが、一方で「決めていない」も10.9%となっている。

性別でみると、男性では「外国債券ファンド」「不動産投信」「外国株式ファンド」が女性よりも高く、女性は「ＭＲＦ・ＭＭＦ・中期国債ファンド」が高く、「決めていない」も男性より高い。

年代別でみると、40代～60代で「国内株式・債券バランスファンド」が30%台となっており、30代と70歳以上で「国内株式ファンド」が、60代以上では「国内債券ファンド」が高い。また、30代と40代で「ＭＲＦ・ＭＭＦ・中期国債ファンド」が高く、「外国債券ファンド」は60代で高い。

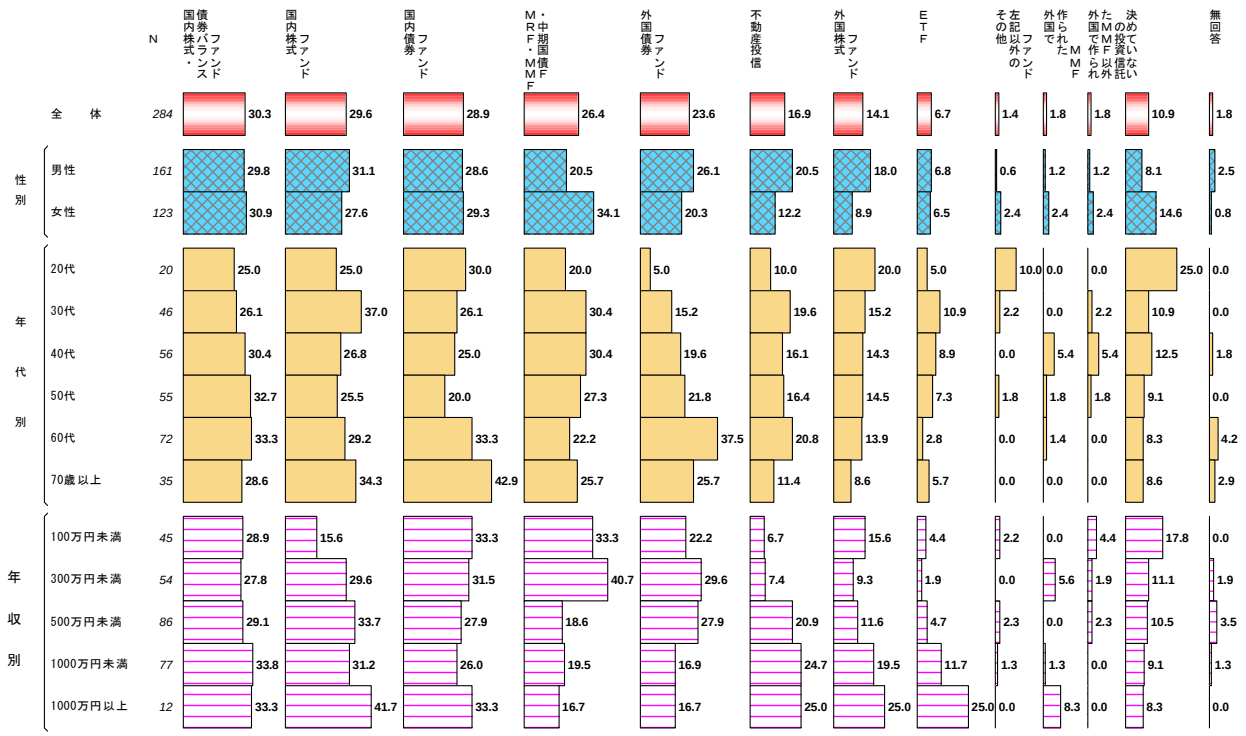
年収別でみると、100万円未満では「国内株式ファンド」が低い。「ＭＲＦ・ＭＭＦ・中期国債ファンド」は100万円未満と300万円未満で高い。

投資信託保有状況別でみると、現在保有層では他層に比べて「外国債券ファンド」が高く、「国内株式ファンド」が低い。保有経験層では「ＭＲＦ・ＭＭＦ・中期国債ファンド」が高い。

投資信託保有種類別では、株式ファンド保有層では「国内株式・債券バランスファンド」「国内株式ファンド」、債券ファンド保有層では「国内債券ファンド」「外国債券ファンド」、ＭＲＦ・ＭＭＦ・中期国債ファンド保有層では「ＭＲＦ・ＭＭＦ・中期国債ファンド」がそれぞれ高く、現在保有している商品種類を継続しようという意向があることがうかがえる。

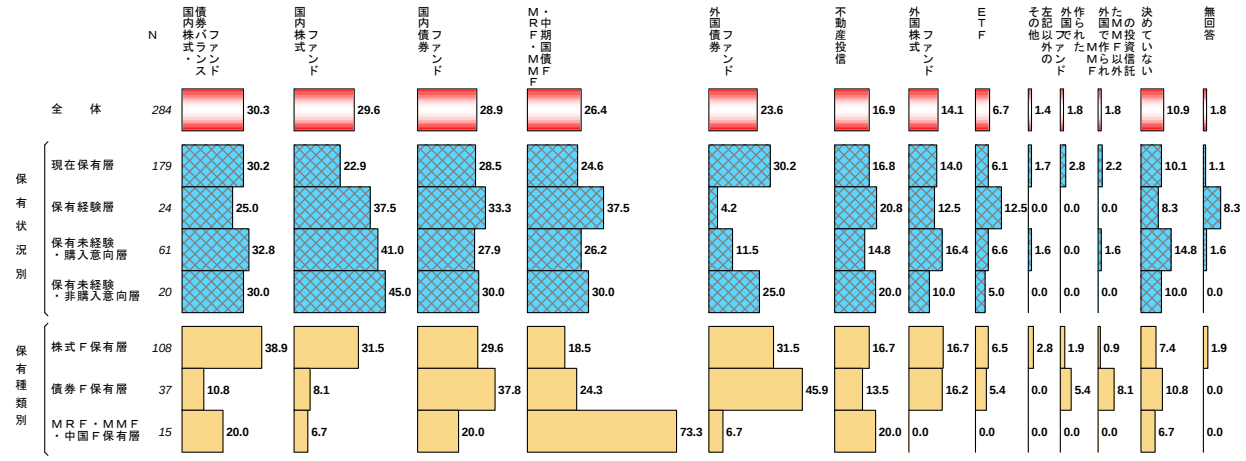
【投資信託の購入意向商品／基本軸１（重複回答　３つまで）－投資信託関心者】

※Ｎ数（サンプル数）が少ない項目については、データをみる際に注意が必要。



【投資信託の購入意向商品／基本軸２（重複回答）－投資信託関心者】

※Ｎ数（サンプル数）が少ない項目については、データをみる際に注意が必要。



③　投資信託の情報取得に適した方法

今後の貯蓄に適した金融商品として、「国内の投資信託」「外国で作られた投資信託」のいずれか１つを選んだ人に対して、投資信託の情報取得に適した方法を尋ねた。最も高かったのは「証券会社等で説明を受け資料請求」(75.4%)であった。次いで、「インターネットで調べる」(39.1%)、「新聞、テレビ等を見たり聞いたりする」(35.9%)が30%台となっている。

性別でみると、男性に比べて女性では、「証券会社等で説明を受け資料請求」「家族や友人等から説明を受ける」が高くなっている。

年代別でみると、概ね年代が上がるにつれて「証券会社等で説明を受け資料請求」が高くなる。逆に「インターネットで調べる」は年代が低いほど高くなっている。

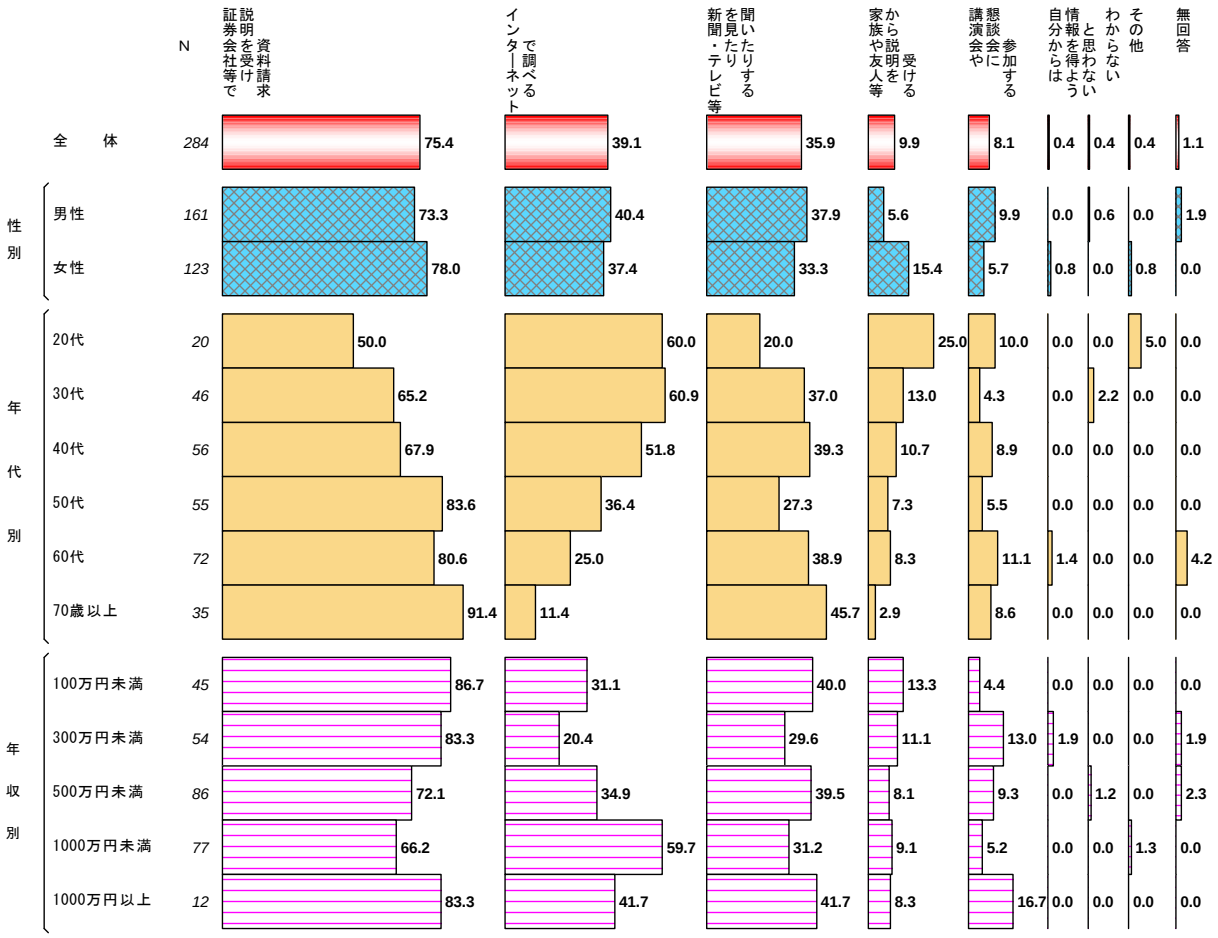
年収別でみると、1000万円未満までの層では、年収が低いほど「証券会社等で説明を受け資料請求」が高くなる。「インターネットで調べる」は1000万円未満で高い。

投資信託保有状況別でみると、保有未経験・購入意向層では現在保有層より「インターネットで調べる」が高い。

投資信託保有種類別でみると、「インターネットで調べる」は株式ファンド保有層が債券ファンドより高く、「証券会社等で説明を受け資料請求」は債券ファンド保有層で高い。

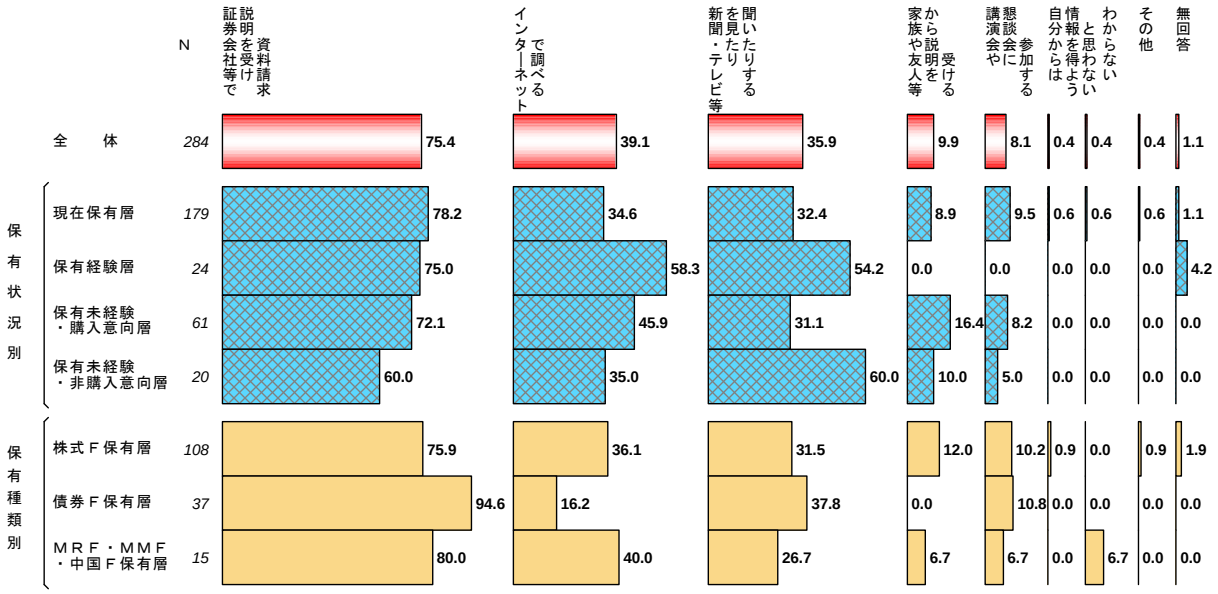
【投資信託の情報取得に適した方法／基本軸１(重複回答)－投資信託関心者】

※Ｎ数(サンプル数)が少ない項目については、データをみる際に注意が必要。



【投資信託の情報取得に適した方法／基本軸２（重複回答） －投資信託関心者】

※Ｎ数（サンプル数）が少ない項目については、データをみる際に注意が必要。



④　投資信託の購入意向機関

今後の貯蓄に適した金融商品として、「国内の投資信託」「外国で作られた投資信託」のいずれか１つを選んだ人に対して、今後新たに投資信託を購入する場合の購入意向機関について尋ねたところ、「証券会社」が 54.6％、「銀行等の金融機関」が 45.1％であった。なお、昨年より販売開始となった「郵便局」は、12.0％となっている。

性別では、特に顕著な差はみられない。

年代別でみると、50 代は「証券会社」が低く、30 代～60 代は年代が低いほど「投資信託会社」が高くなっている。また、「郵便局」は 50 代が他の年代に比べて高い。

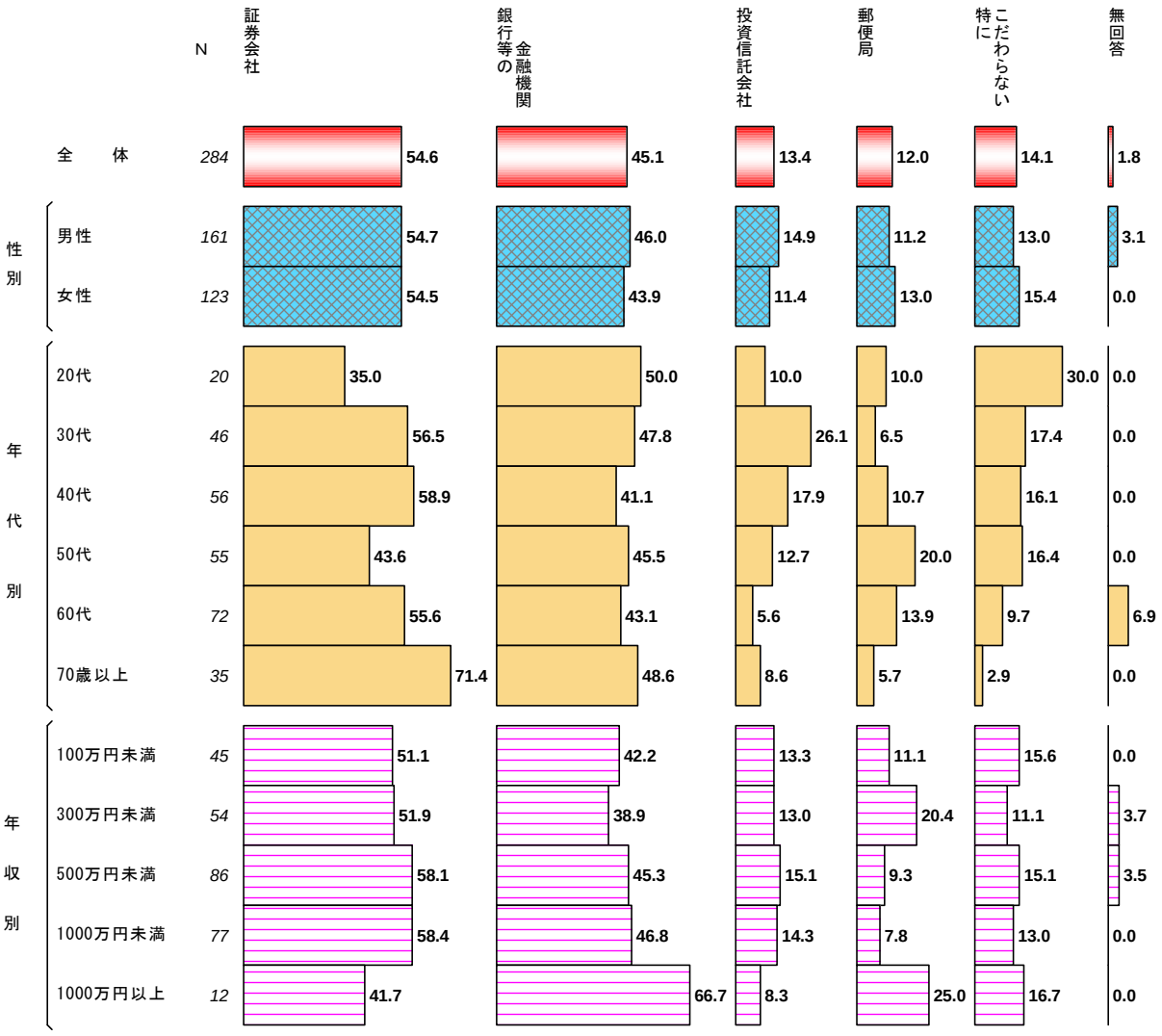
年収別でみると、500 万円未満と 1000 万円未満では「証券会社」が、300 万円未満では「郵便局」が高くなっている。

投資信託保有状況別では、現在保有層と保有経験層では「証券会社」が、保有未経験層では「銀行等の金融機関」が高い。現在保有層では「郵便局」が低い。

投資信託保有種類別では、株式ファンド保有層では他層に比べて「証券会社」が低く、「銀行等の金融機関」が高い。

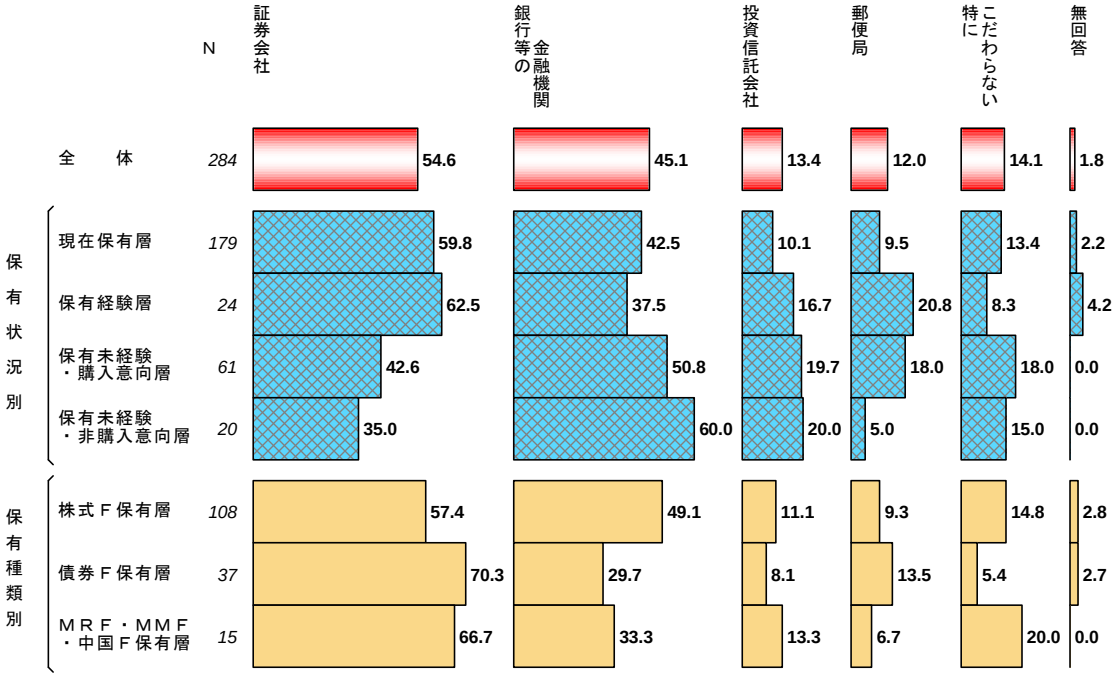
【投資信託の購入意向機関／基本軸１（重複回答）－投資信託関心者】

※Ｎ数（サンプル数）が少ない項目については、データをみる際に注意が必要。



【投資信託の購入意向機関／基本軸２（重複回答）－投資信託関心者】

※Ｎ数（サンプル数）が少ない項目については、データをみる際に注意が必要。



⑤　投資信託の保有期間

今後の貯蓄に適した金融商品として、「国内の投資信託」「外国で作られた投資信託」のいずれか１つを選んだ人に対して、投資信託を購入する場合の保有期間を尋ねた。最も高かったのは、「特に期間は決めない」(28.2%)で、次いで「３年以上５年未満」(23.9%)、「２年以上３年未満」(20.4%)であった。

性別でみると、男性、女性ともに「特に期間を決めない」が最も高いが、これを除くと男性では「２年以上３年未満」が、女性では「３年以上５年未満」が高い。

年代別でみると、40 代では「２年以上３年未満」が、50 代と 60 代では「３年以上５年未満」が高くなっている。また、30 代と 50 代では「特に期間は決めない」が高い。

年収別でみると、500 万円未満までは、「特に期間は決めない」を除くと年収が低いほど「２年以上３年未満」より短い保有期間の意向が高くなっている。

投資信託保有状況別では、現在保有層で「特に期間は決めない」が 29.6%と高いが、「２年以上３年未満」「３年以上５年未満」も 20%以上となっている。

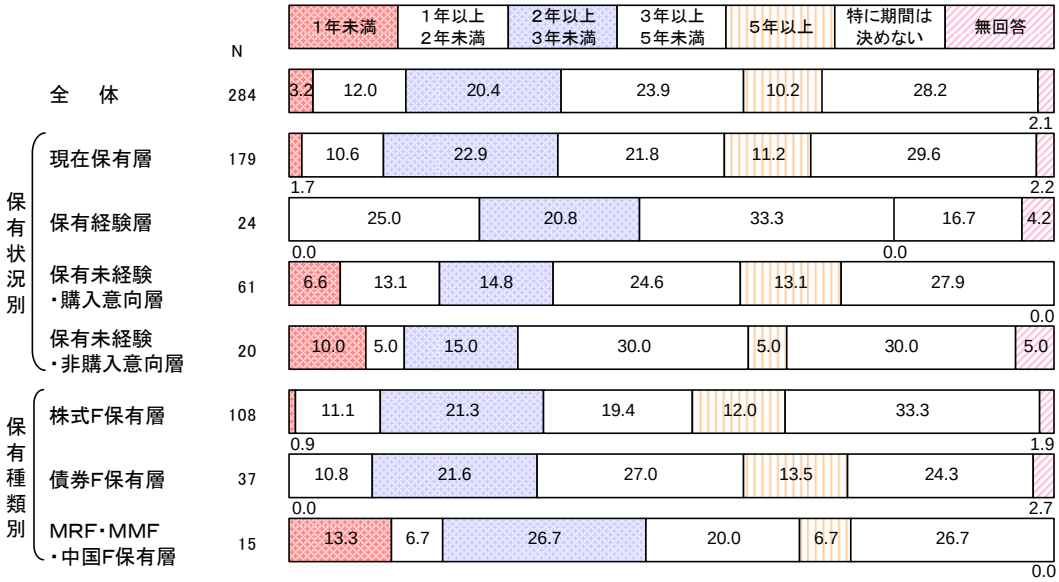
投資信託保有種類別でみると、株式ファンド保有層では「特に期間は決めない」が 33.3%と高い。

【投資信託の保有期間／基本軸１(単数回答)－投資信託関心者】

※Ｎ数(サンプル数)が少ない項目については、データをみる際に注意が必要。

【投資信託の保有期間／基本軸２（単数回答）－投資信託関心者】

※Ｎ数（サンプル数）が少ない項目については、データをみる際に注意が必要。



【参考：平成 15 年調査結果】

※平成 18 年調査から調査対象・方法を変更しているが、それに加え上記の質問については、対象となる回答者も変更している点に注意が必要。

平成 15 年調査では質問の対象を投資信託の保有経験のある世帯としていたが、平成 18 年調査では保有未経験層を含めた投資信託関心者を対象としている。

（Ｎ＝898）

１年未満	9.5
１年以上～２年未満	16.1
２年以上～３年未満	14.4
３年以上～５年未満	17.8
５年以上	6.6
特に期間は決めない	34.5
無回答	1.1

８．投資信託に関する認知・接触状況（回答者全体）

（１）投資信託の認知状況

投資信託の認知状況は、「よく知っている」が 29.4%、「言葉だけは知っている」が 66.2%、「言葉も知らなかった」が 1.4%となっており、投資信託という「言葉だけは知っている」が多数を占めている。

性別でみると、「よく知っている」は男性が女性をやや上回るが、それほど顕著な差はみられない。

年代別でみると、「よく知っている」は 30 代以下で 20%に満たず、40 代と 50 代では 25%程度、60 代以上になると 50%程度と、年代が上がるほど高くなる。

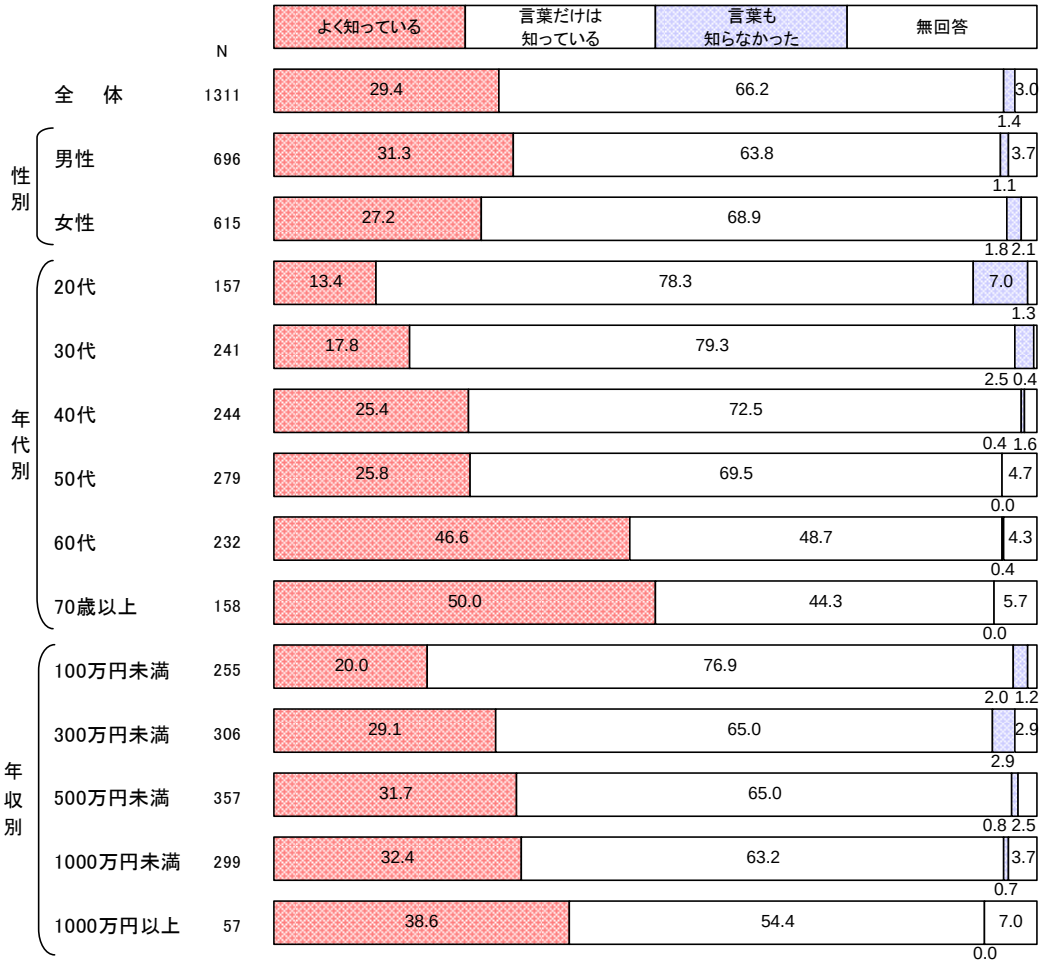
年収別でみると、年収が高くなるほど「よく知っている」が高くなる。

投資信託保有状況別では、「よく知っている」は、現在保有層、保有経験層、保有未経験層の順で高い。

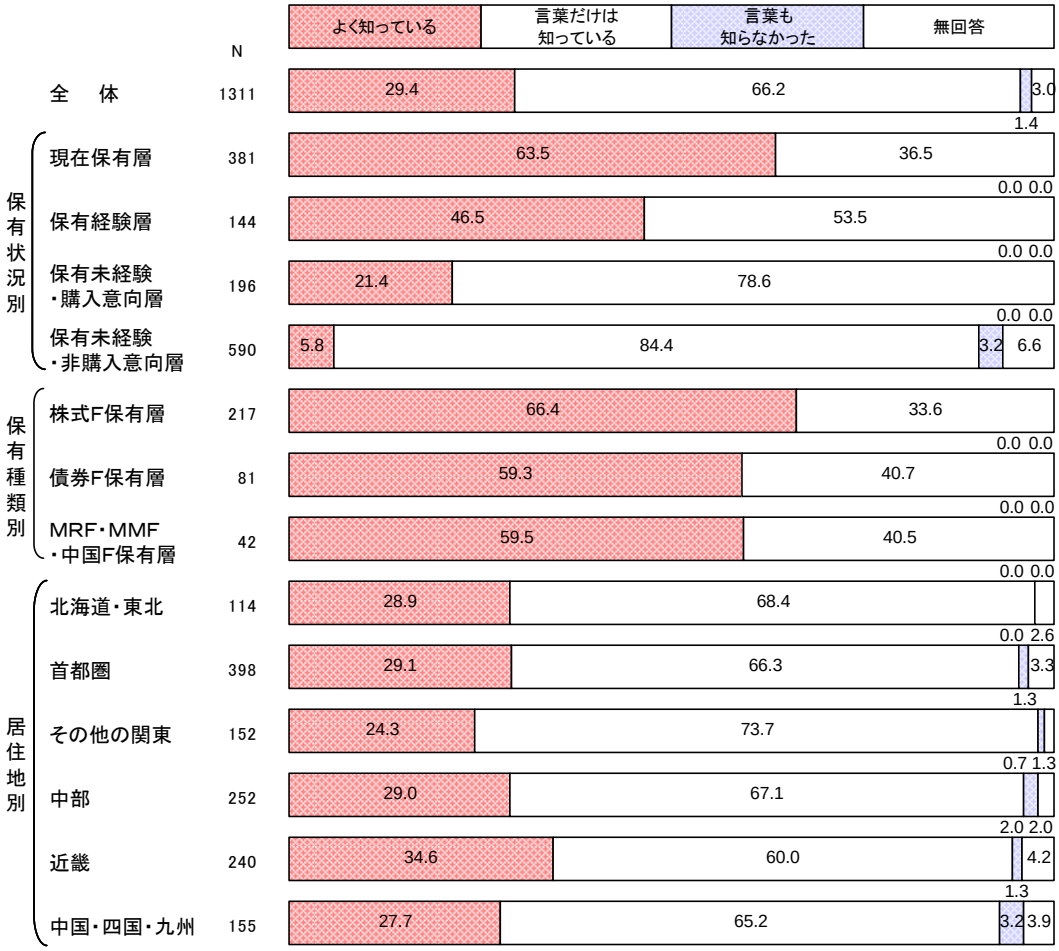
投資信託保有種類別でみると、株式ファンド保有層では他層に比べて「よく知っている」が高い。

居住地別では、「よく知っている」は近畿で 34.6%と最も高く、その他の関東では 24.3%と最も低い。

【投資信託の認知状況／基本軸１（単数回答）】



【投資信託の認知状況／基本軸２（単数回答）】



【参考：平成 15 年調査結果】

※平成 18 年調査から、調査対象・方法を変更している点に注意が必要。

（N＝1801）

よく知っている	26.2
言葉だけは知っている	70.7
言葉も知らなかった	3.1

（２）投資信託の商品内容認知状況

投資信託の特徴として知っているものを答えてもらったところ、「元本の保証はない」が 64.1％で最も高くなっている。以下、「銀行などの金融機関でも購入できる」(58.7％)、「国内の投資信託と海外の投資信託がある」(52.9％)、「価格変動があり、外国投資は為替リスクがある」(49.4％)、「リスクとリターンは相互関係にある」(40.0％)、「ＭＲＦ・ＭＭＦおよび中期国債ファンドは投資信託商品」(37.8％)が続いている。「知っているものは特にない」は 15.6％であった。

性別でみると、多くの項目で男性が女性を上回っているが、特に差が大きいのは「元本の保証がない」「価格変動があり、外国投資は為替リスクがある」「リスクとリターンは相互関係にある」「投資信託会社が運用している」「基準価額は新聞や投資信託会社のホームページで閲覧可」である。

年代別でみると、多くの項目で 40 代～60 代が高く、30 代以下で低い。また、30 代以下では「知っているものは特にない」が高い。

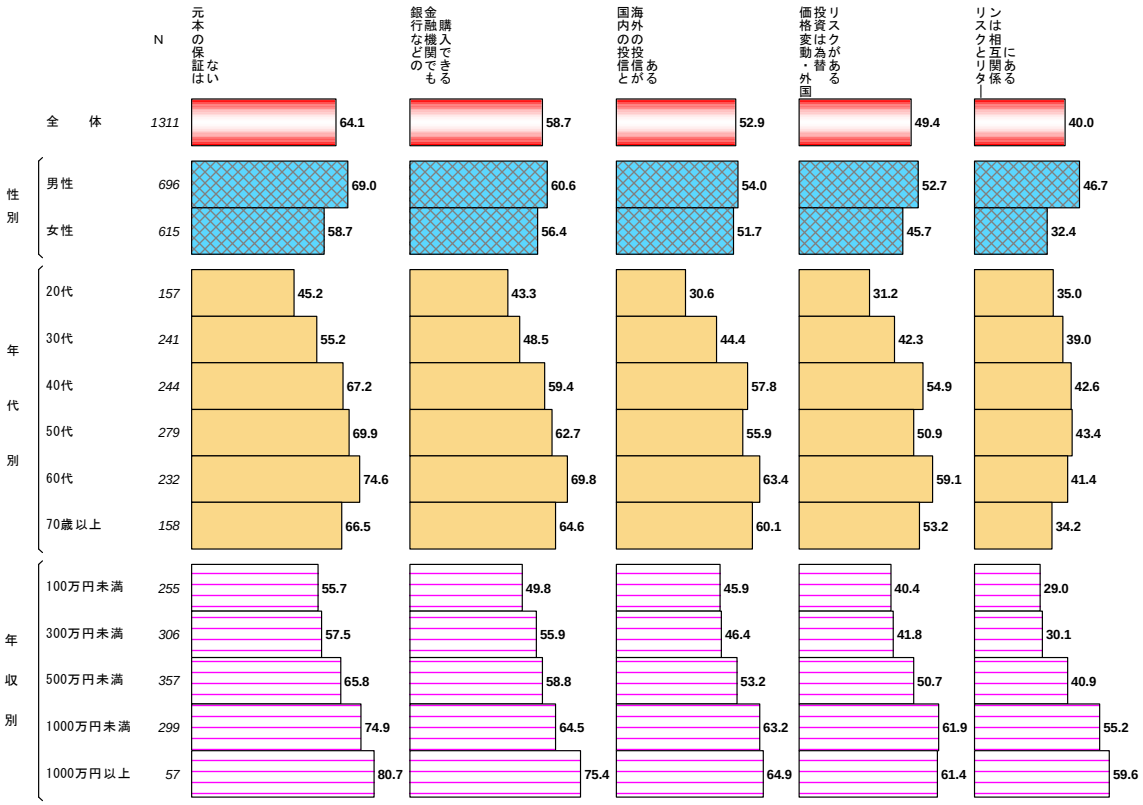
年収別でも、多くの項目で年収が高いほど高く、「知っているものは特にない」は年収が低いほど高い。

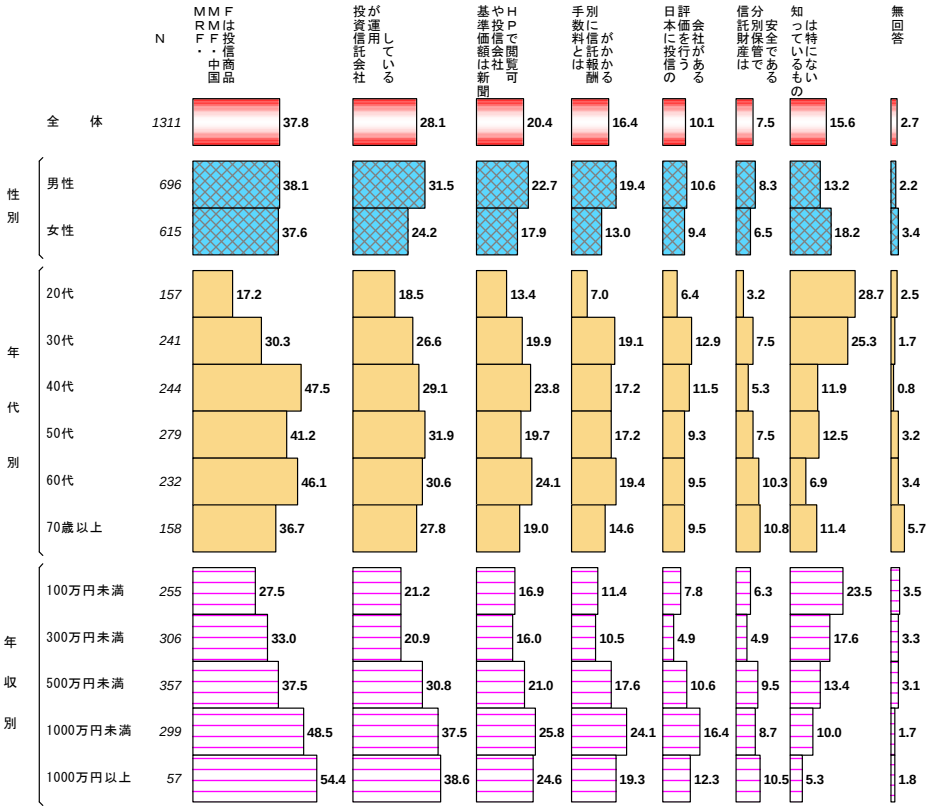
投資信託保有状況別でみると、全ての項目で保有未経験・非購入意向層が特に低く、「知っているものは特にない」が 29.5％と高い。

投資信託保有種類別では、ＭＲＦ・ＭＭＦ・中期国債ファンド保有層で「ＭＲＦ・ＭＭＦ・中期国債ファンドは投信商品」が高いが、それ以外の項目では株式ファンド保有層が最も高くなっている。

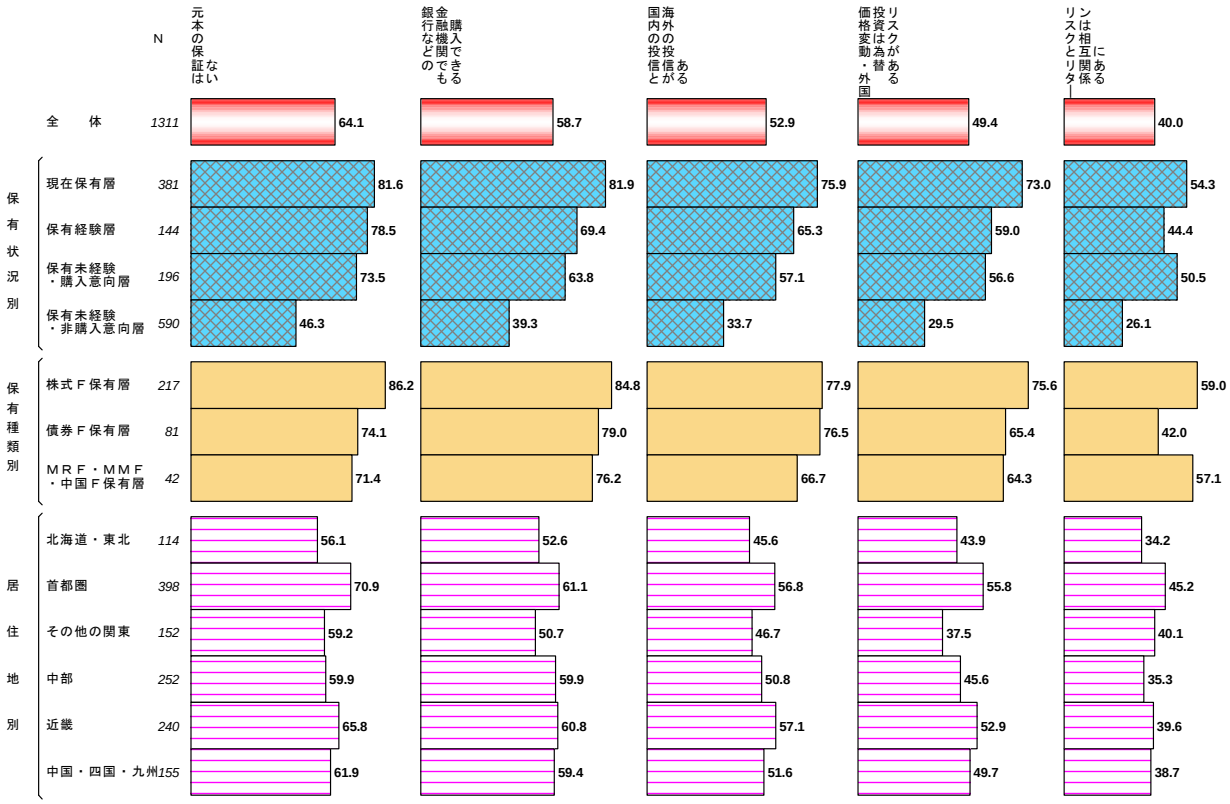
居住地別でみると、首都圏、近畿で高い項目が多くみられる。

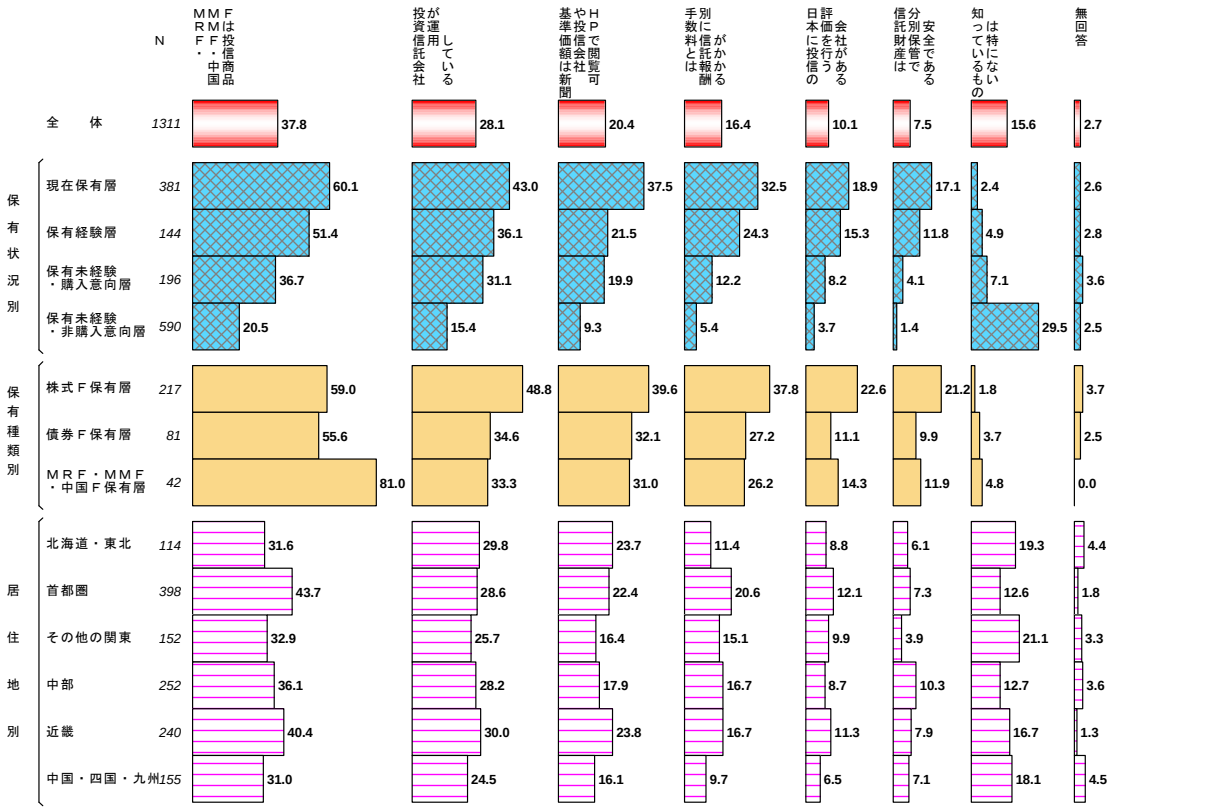
【投資信託の商品内容認知状況／基本軸１（重複回答）】





【投資信託の商品内容認知状況／基本軸２（重複回答）】





（３）投資信託の広告接触状況

①　広告接触の有無

この２～３カ月の間に投資信託の広告を「見聞きしたことがある」のは 87.6%、「見聞きしたことがない」のは 11.7%となっている。

性別でみると、「見聞きしたことがある」で男性が若干女性を上回るものの、ほとんど差はない。

年代別でみると、60 代までは年代が上がるにつれて「見聞きしたことがある」が高くなっている。

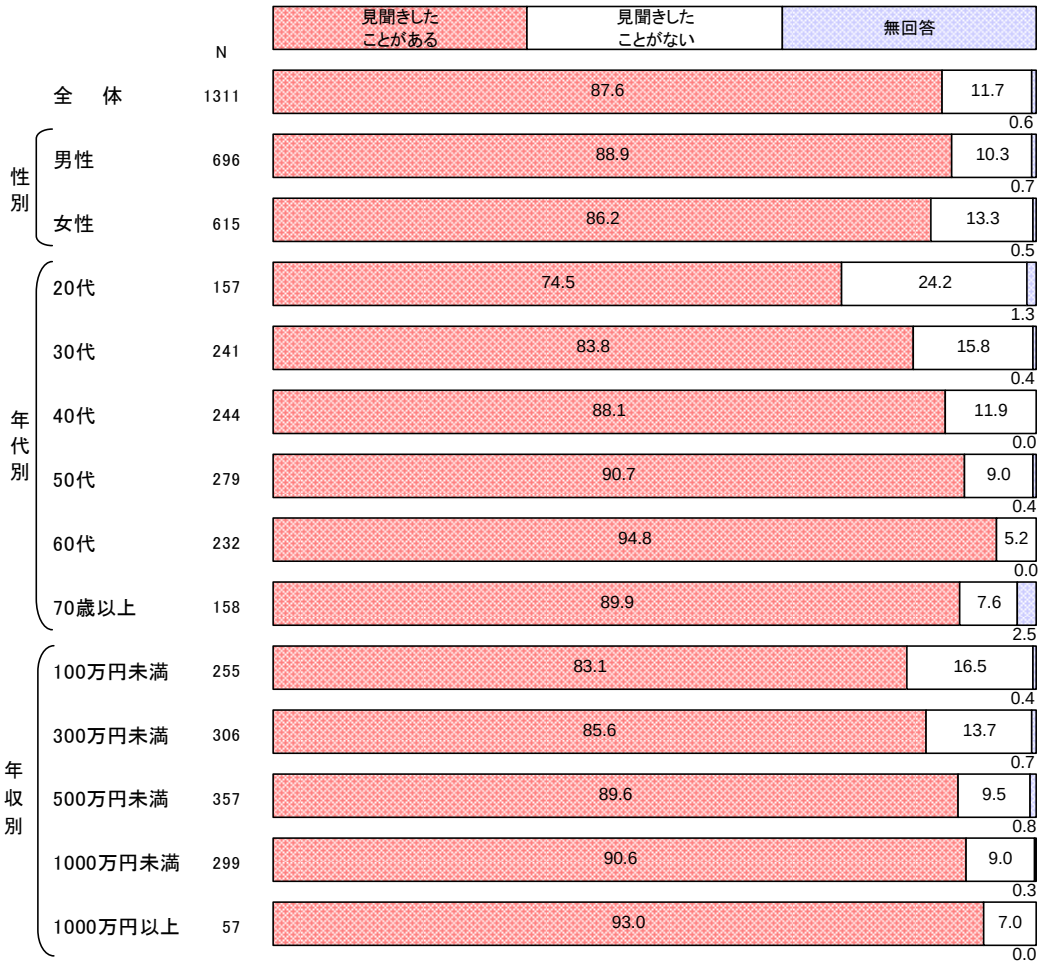
年収別では、年収が上がるにつれて「見聞きしたことがある」が高くなる。

投資信託保有状況別でみると、現在保有層と保有未経験層・購入意向層で「見聞きしたことがある」が高く、保有未経験層・非購入意向層で特に低い。

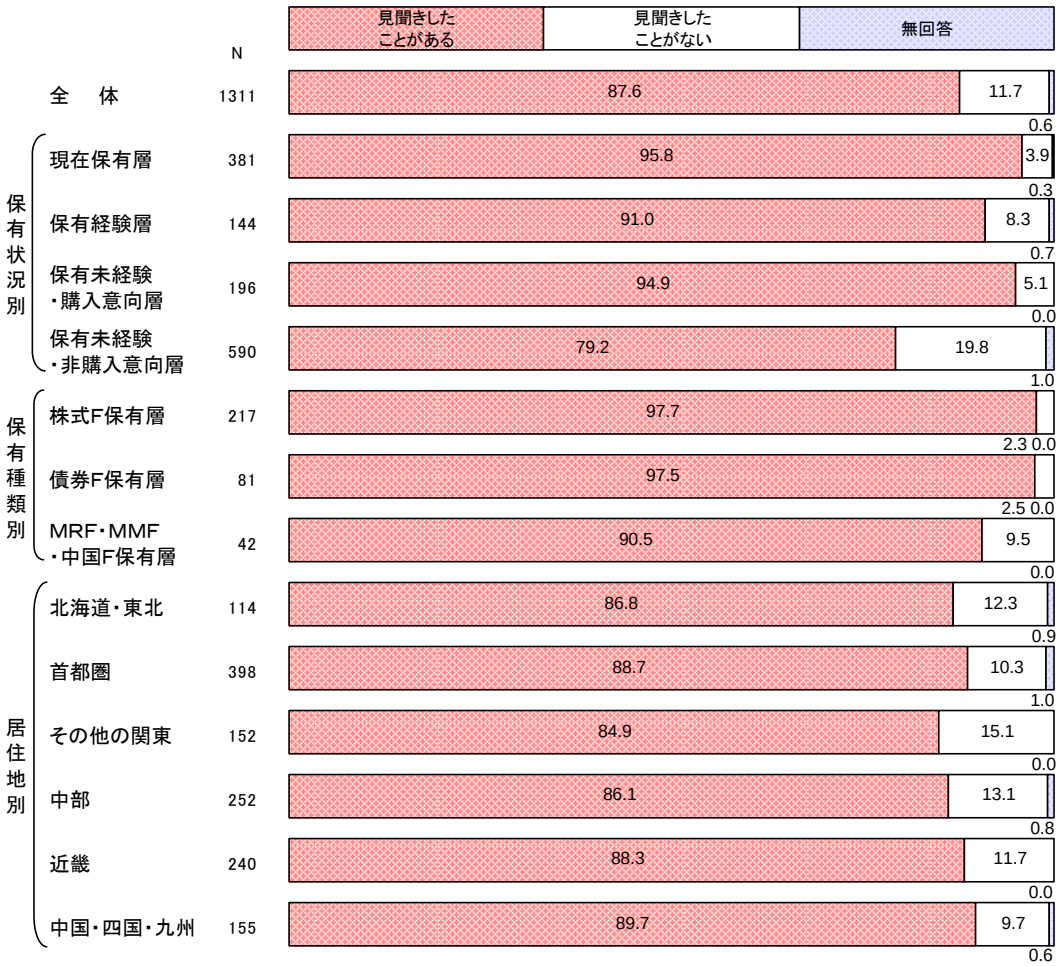
投資信託保有種類別では、「見聞きしたことがある」が株式ファンド保有層、債券ファンド保有層、ＭＲＦ・ＭＭＦ・中期国債ファンド保有層の順に高い。

居住地別では、その他の関東で「見聞きしたことがある」が 84.9%と他地域に比べやや低いが、顕著な地域差はみられない。

【投資信託の広告接触の有無／基本軸１（単数回答）】



【投資信託の広告接触の有無／基本軸２（単数回答）】



② 特に印象の強い接触媒体(広告接触者)

広告を見聞きしたことのある広告接触者に、接触媒体の中で特に印象が強いものを尋ねたところ、「新聞」が 34.6%、「テレビ」が 29.2%となった。

性別でみると、男性では「新聞」、女性では「テレビ」が高い。

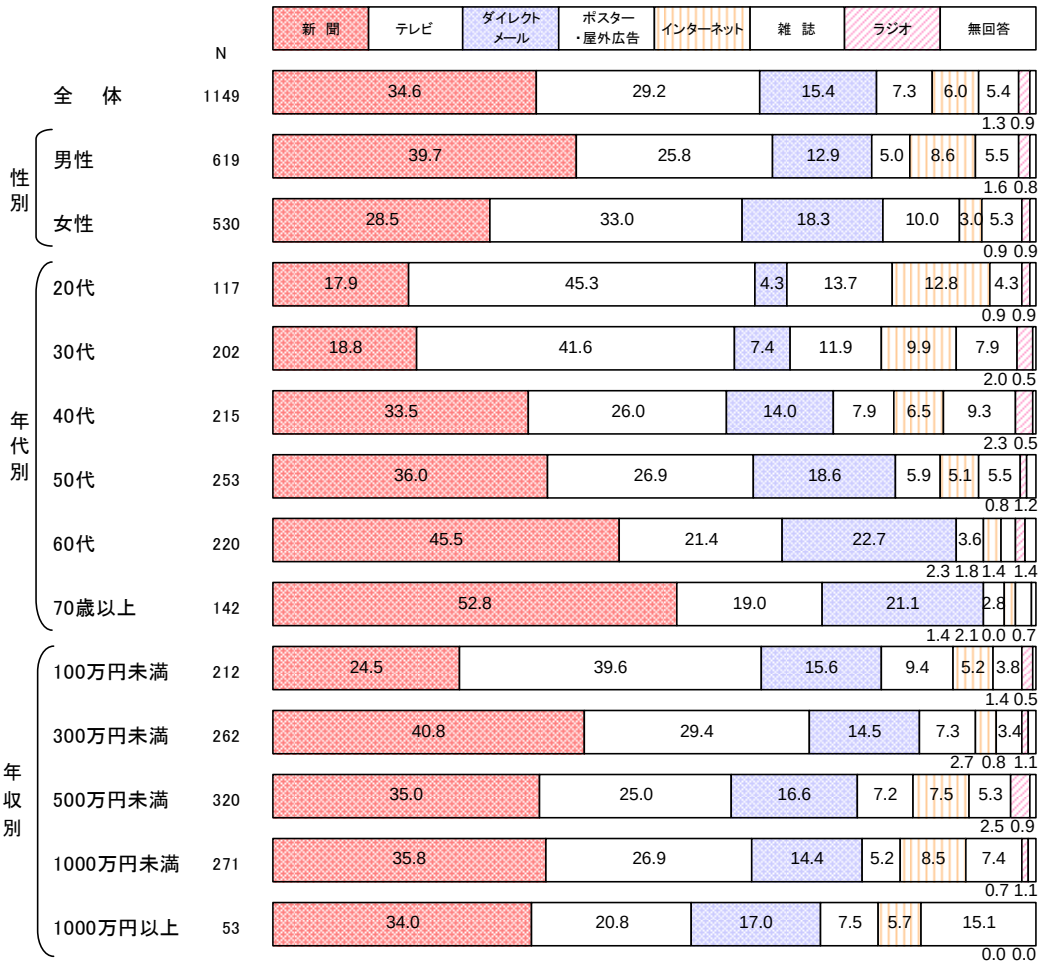
年代別でみると、年代が上がるにつれて「新聞」が高くなり、70 歳以上では半数を超える。逆にテレビは年代が低いほど高い傾向がみられる。

年収別でみると、100 万円未満で「テレビ」、300 万円未満で「新聞」が高い。

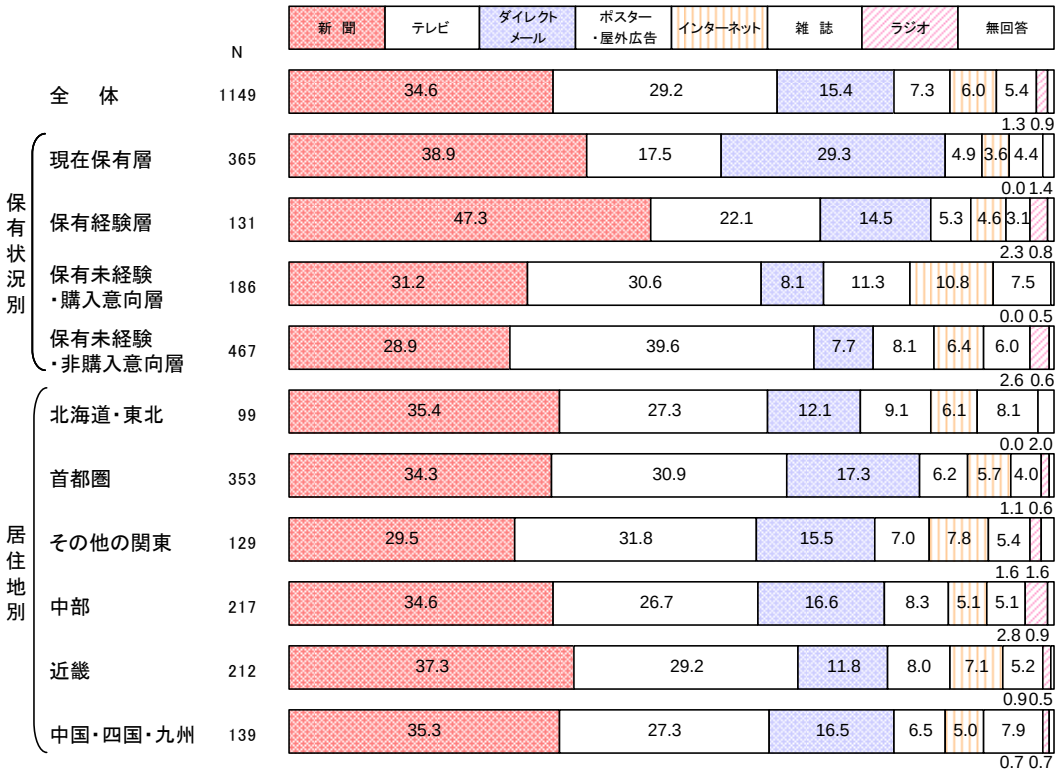
投資信託保有状況別でみると、現在保有層では他層に比べて「ダイレクトメール」が、保有経験層では「新聞」、保有未経験層では「テレビ」が高い。

居住地別では、その他の関東で他の地域に比べて「新聞」が 29.5%とやや低い。

【特に印象の強い接触媒体／基本軸１（単数回答）－広告接触者】



【特に印象の強い接触媒体／基本軸２（単数回答）－広告接触者】



（4）投資信託の勧誘経験（投資信託認知者）

投資信託を「よく知っている」「言葉だけは知っている」という認知者（86 ページ参照）に、これまでに投資信託の購入勧誘経験を尋ねたところ、「ある」は 58.7%、「ない」は 41.0%となっている。

性別でみると、「ある」では男性が女性をわずかに上回るが、大きな違いはみられない。

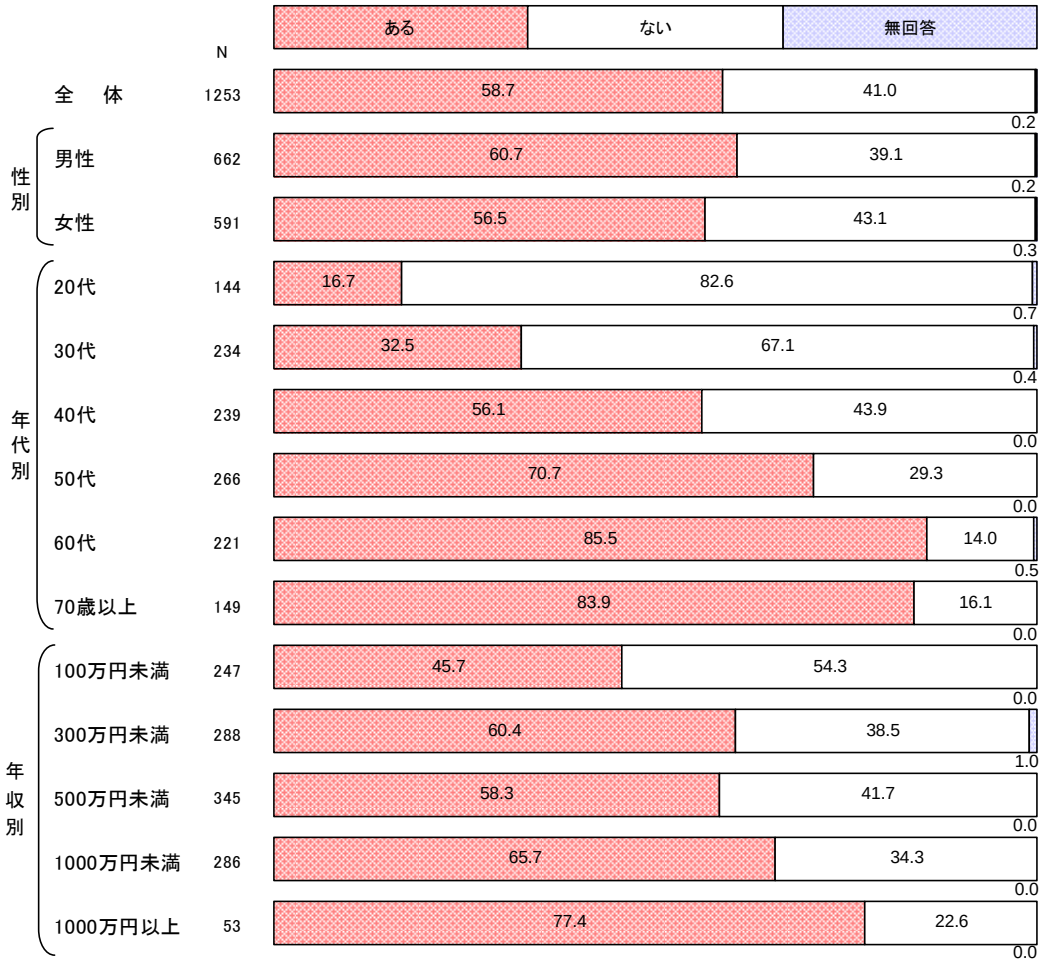
年代別でみると、「ある」は 60 代をピークに年代が上がるほど高くなっている。

年収別でみると、「ある」が概ね年収が上がるほど高くなっている。

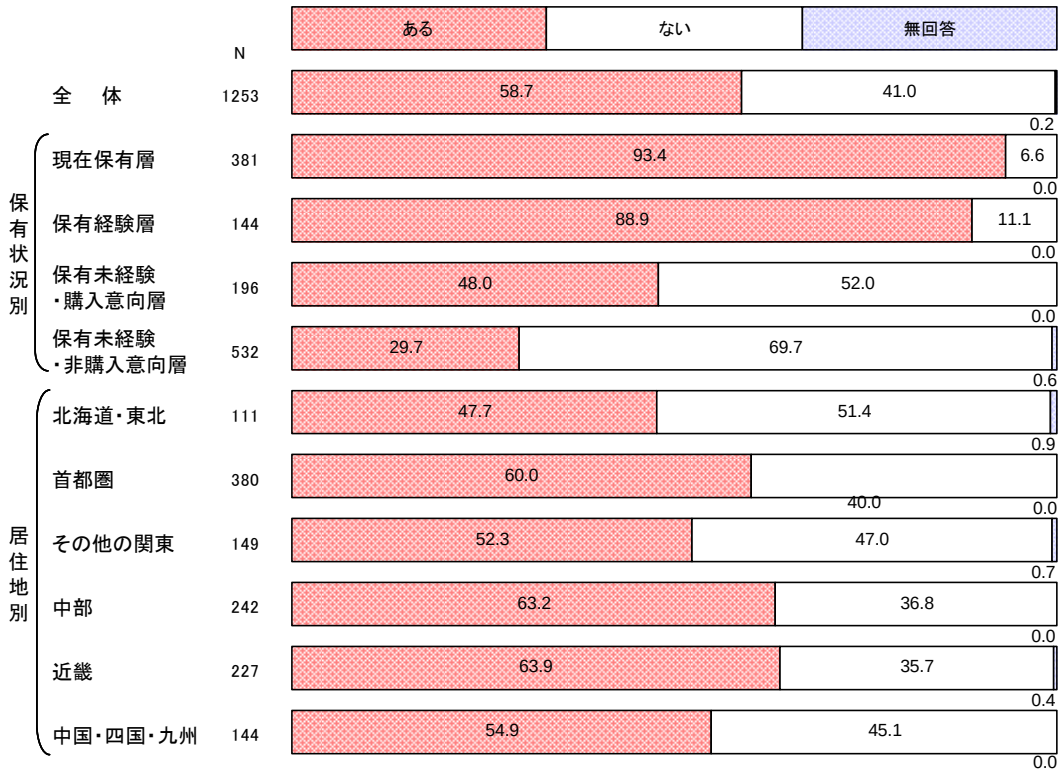
投資信託保有状況別でみると、現在保有層と保有経験層では「ある」が 90%前後であるのに対して、保有未経験層では購入意向有無にかかわらず、「ない」が半数以上を占めている。

居住地別でみると、「ある」は首都圏、中部、近畿で 60%台と高い。

【投資信託の勧誘経験／基本軸１（単数回答）－投資信託認知者】



【投資信託の勧誘経験／基本軸２（単数回答）－投資信託認知者】



（５）確定拠出年金の加入状況

確定拠出年金の加入状況については、「加入していない」が 89.8％とほとんどを占めている。

性別では、「加入し投資信託を購入している」でわずかながら男性が女性を上回るが、大きな違いはみられない。

年代別でみると、30 代と 40 代で「加入し投資信託を購入している」が５％前後であるが、どの年代でも 90％前後が「加入していない」となっている。

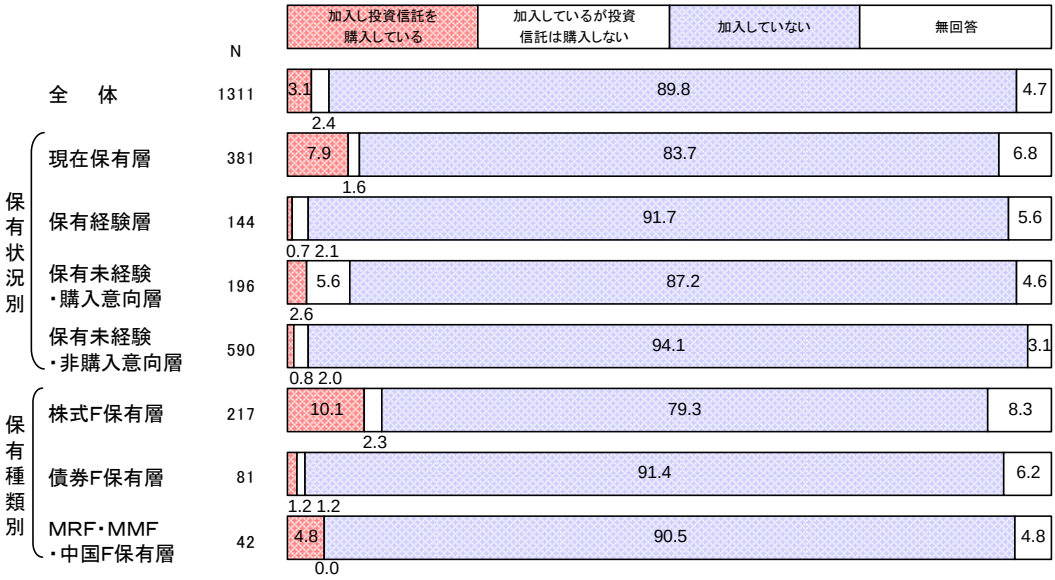
年収別でみると、投資信託の購入有無にかかわらず『加入している』は、年収が上がるにつれてわずかずつであるが高くなる。

投資信託保有状況別でみると、現在保有層では「加入し投資信託を購入している」が 7.9％、「加入しているが投資信託は購入していない」が 1.6％となっている。保有未経験・購入意向者では前者が 2.6％、後者が 5.6％となっている。

投資信託保有種類別でみると、株式ファンド保有層では、「加入し投資信託を購入している」が 10.1％となっている。

【確定拠出年金の加入状況／基本軸１（単数回答）】

【確定拠出年金の加入状況／基本軸２（単数回答）】



（６）株式投資信託税制の認知状況

株式投資信託税制の認知状況については、「収益分配金等の税率が 10%に軽減」が 19.1%、「損失を確定申告で３年の繰越控除が可能」が 16.3%、「解約損を申告で株式売買益と通算可能」が 10.5%となっている。一方、「有利になったことは知っている」が 15.0%、「１つも知らない」は 55.3%を占めた。

性別でみると、「収益分配金等の税率が 10%に軽減」で男性が女性よりも高い。一方、女性では「１つも知らない」が男性を大きく上回っている。

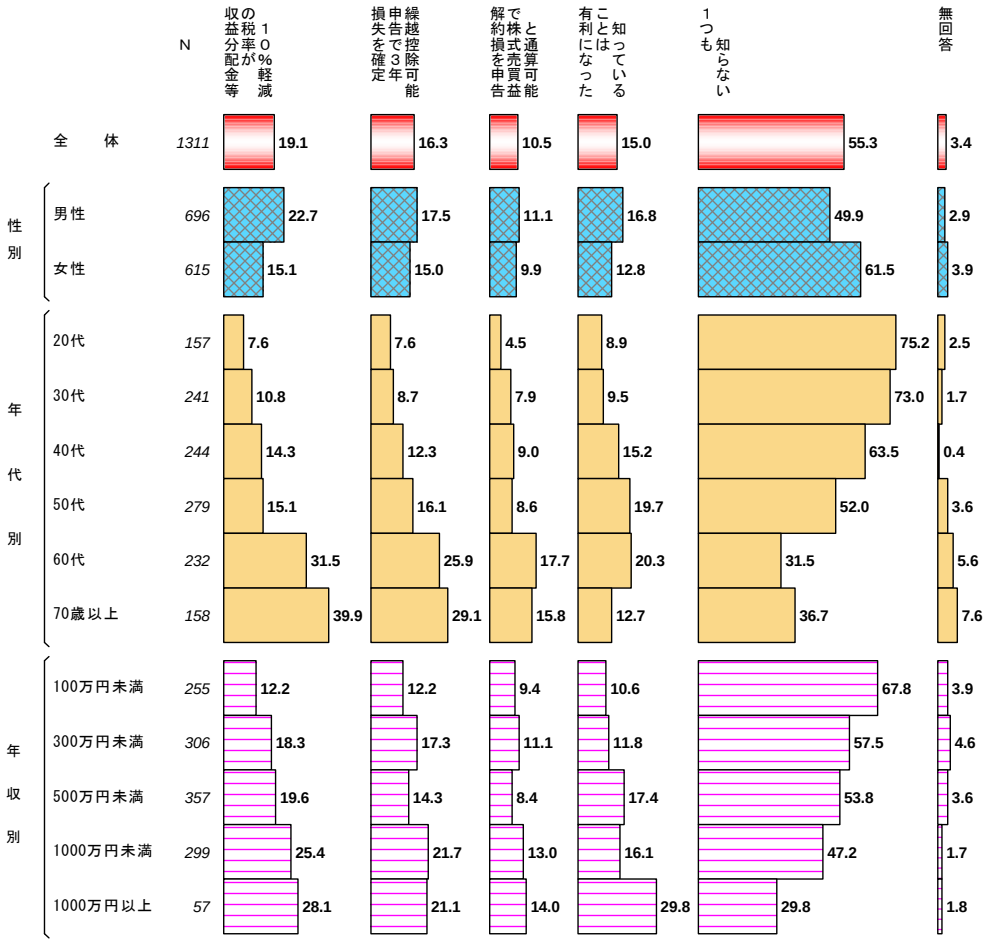
年代別でみると、「収益分配金等の税率が 10%に軽減」と「損失を確定申告で３年繰越可能」では年代が上がるほど高くなる。「１つも知らない」は 50 代以下で年代が下がるほど高い。

年収別では、「収益分配金等の税率が 10%に軽減」は年収が上がるほど高く、「１つも知らない」は年収が低いほど高い。

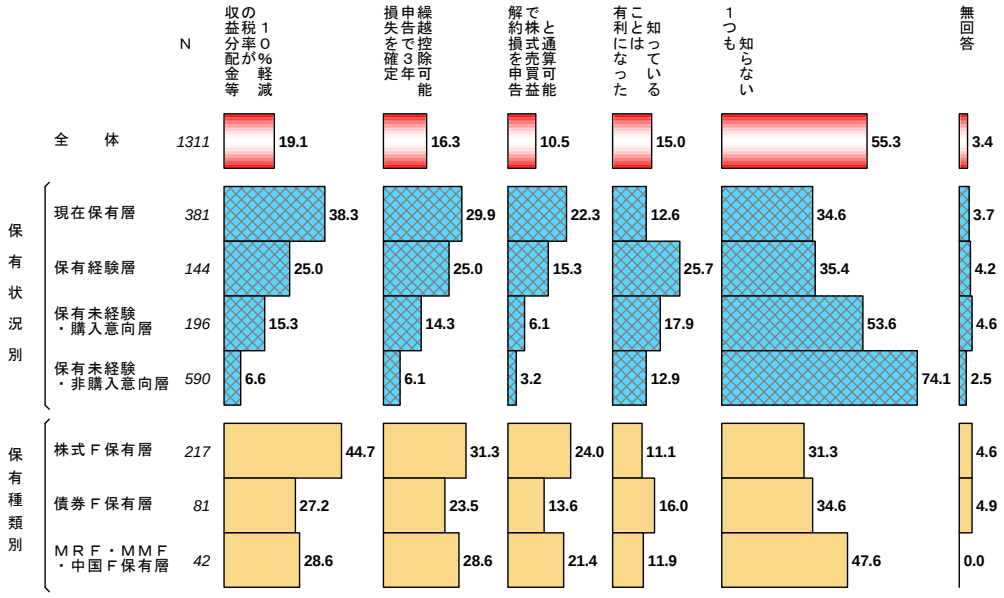
投資信託保有状況別でみると、３項目全てにおいて現在保有層、保有経験層、保有未経験層の順に高い。

投資信託保有種類別では、株式ファンド保有層で「収益分配金等の税率が 10%に軽減」が他層に比べて高く、ＭＲＦ・ＭＭＦ・中期国債ファンド保有層は「１つも知らない」が高い。

【株式投資信託税制の認知／基本軸１（重複回答）】



【株式投資信託税制の認知／基本軸２（重複回答）】



（7）上場投資信託の認知と興味

①　上場投資信託の認知

ＥＴＦ、不動産投信、ベンチャーファンドといった投資信託商品が証券取引所に上場されていることを知っているかについては、「ＥＴＦを知っている」が 16.3％、「不動産投信を知っている」が 14.9％、「ベンチャーファンドを知っている」が 10.1％であった。「１つも知らなかった」は 69.0％であった。

性別でみると、男性では「ＥＴＦを知っている」と「不動産投信を知っている」が女性を上回り、女性は「１つも知らなかった」が高くなっている。

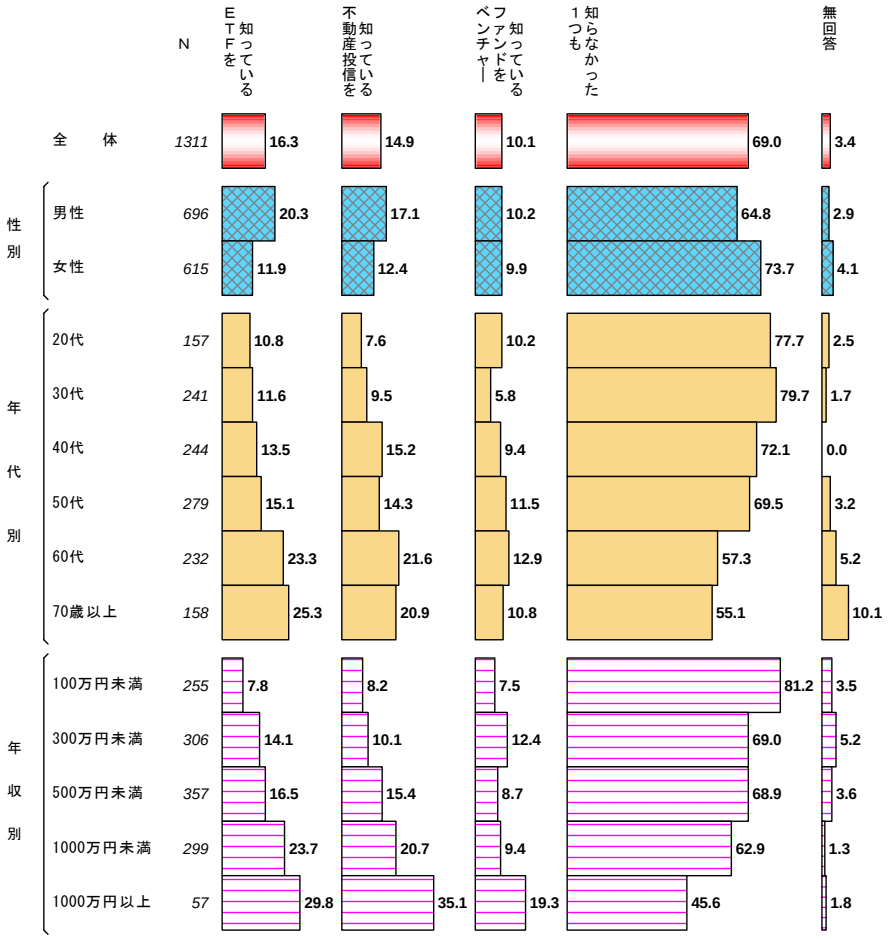
年代別でみると、「ＥＴＦを知っている」と「不動産投信を知っている」は概ね年代が上がるにつれて高くなり、「１つも知らなかった」は年代が低いほど高くなる。

年収別でみると、「ＥＴＦを知っている」と「不動産投信を知っている」は年収が上がるほど高く、「１つも知らなかった」は年収が低いほど高くなる。

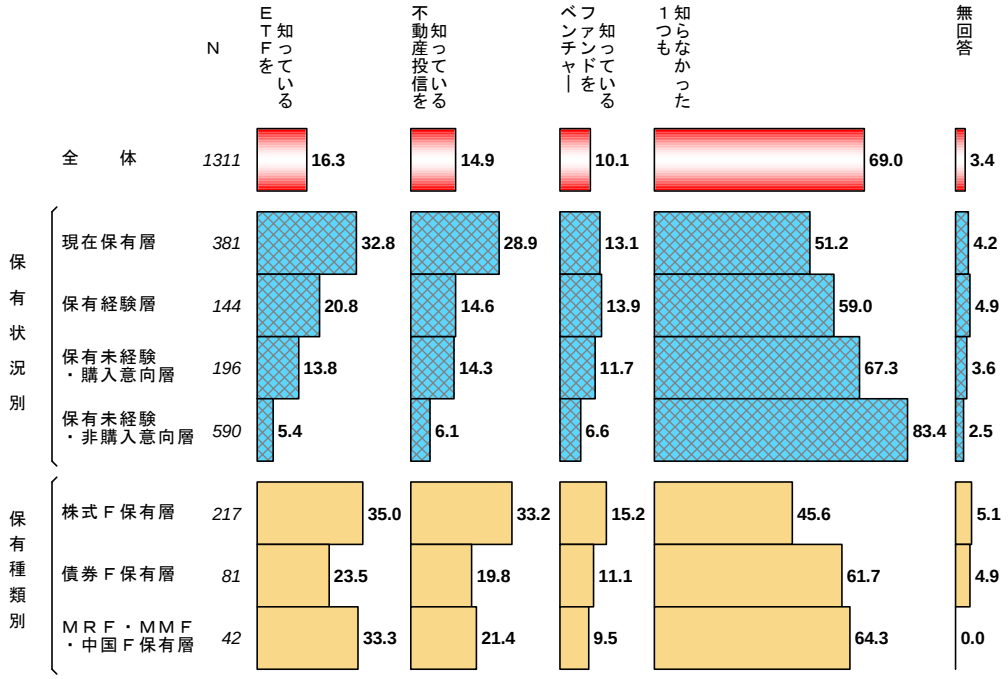
投資信託保有状況別でみると、３項目全てにおいて現在保有層、保有経験層、保有未経験層・購入意向層、保有未経験層・非購入意向層の順に高い。

投資信託保有種類別でみると、「１つも知らなかった」は株式ファンド保有層で低い。

【上場投資信託の認知／基本軸１（重複回答）】



【上場投資信託の認知／基本軸２（重複回答）】



②　ＥＴＦへの興味

上場投資信託のうちＥＴＦへの興味については、「現在保有している」は 2.7%、「購入してみたい」は 12.3%であった。

性別でみると、「購入してみたい」では男性が 15.8%、女性が 18.3%で男性が女性を上回る。

年代別でみると、「現在保有している」が最も高い 70 歳以上でも 6.3%に留まる。「購入するつもりはない」は年代が低いほど高くなる。

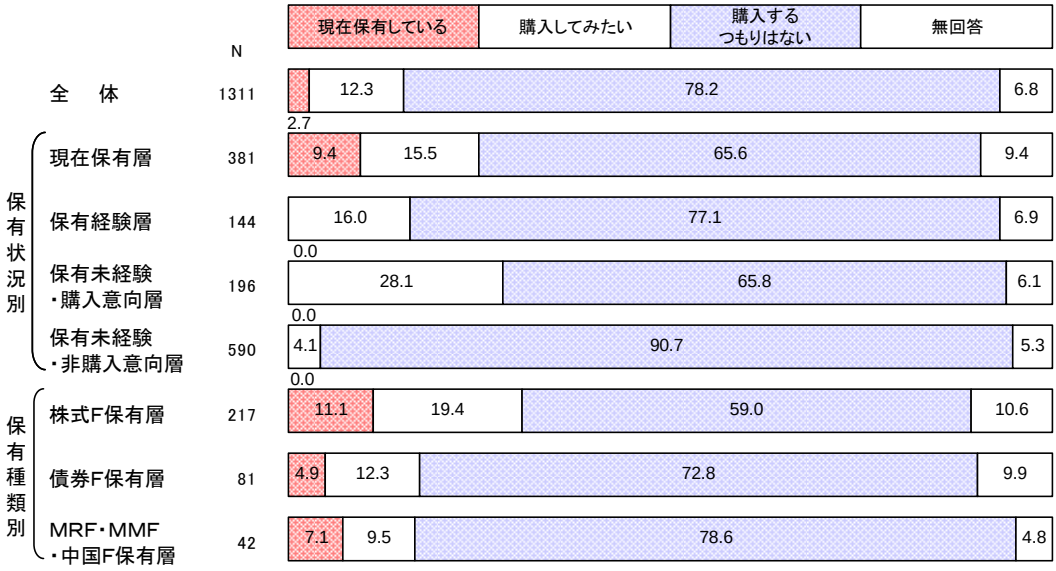
年収別でみると、概ね年収が上がるにつれて「現在保有している」「購入してみたい」が高くなり、「購入するつもりはない」が低くなる。

投資信託保有状況別でみると、現在保有層では「現在保有している」が 9.4%となっている。保有未経験・購入意向層では「購入してみたい」が 28.1%と他層に比べて高い。

投資信託保有種類別でみると、株式ファンド保有層で「現在保有している」「購入してみたい」がともに他層に比べて高い。

【ＥＴＦへの興味／基本軸１（単数回答）】

【ＥＴＦへの興味／基本軸２（単数回答）】



③　不動産投信への興味

上場投資信託のうち不動産投信への興味については、「現在保有している」は 3.3%、「購入してみたい」は 8.7%であった。

性別でみると、「購入してみたい」で男性が女性をやや上回るが、大きな差はみられない。

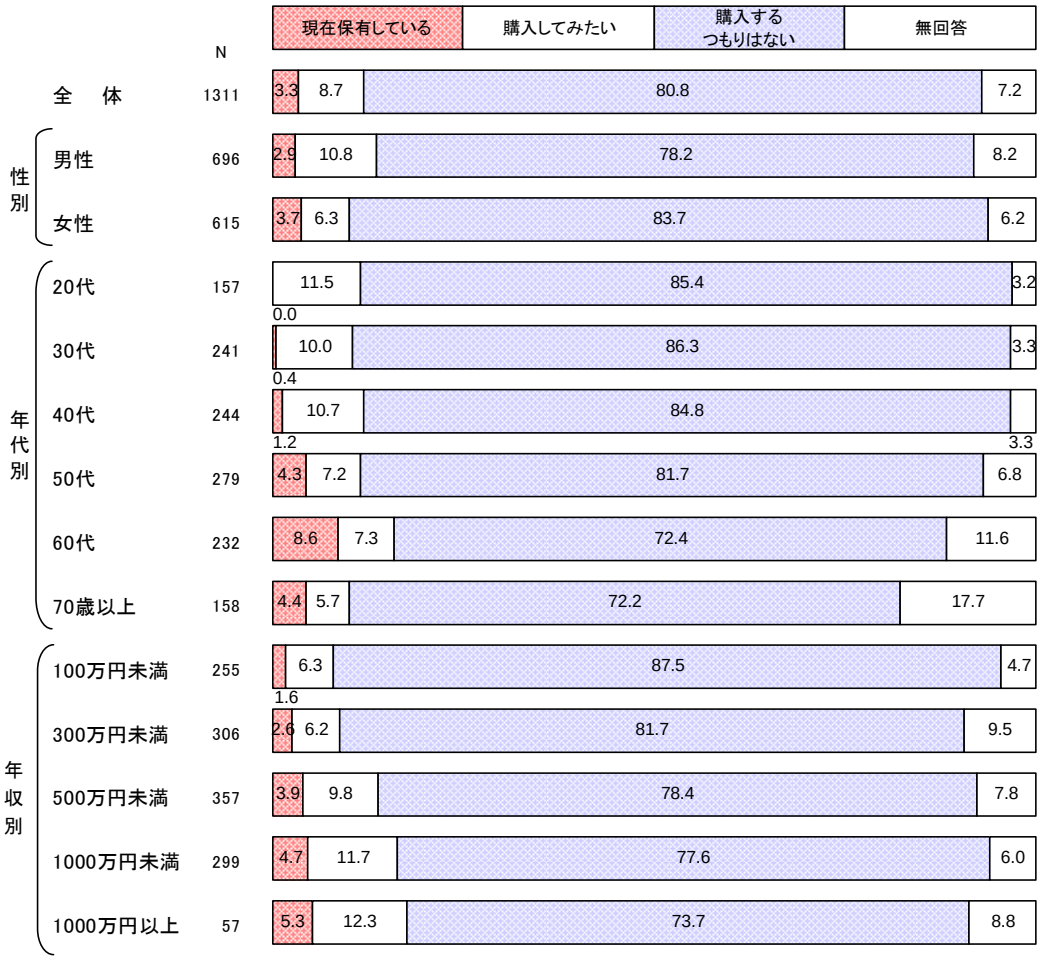
年代別でみると、60 代で「現在保有している」が 8.6%と他の年代に比べて高く、「購入してみたい」は 20 代～40 代で 10%程度となっている。

年収別でみると、「現在保有している」「保有してみたい」ともに概ね年収が上がるにつれて高くなっている。

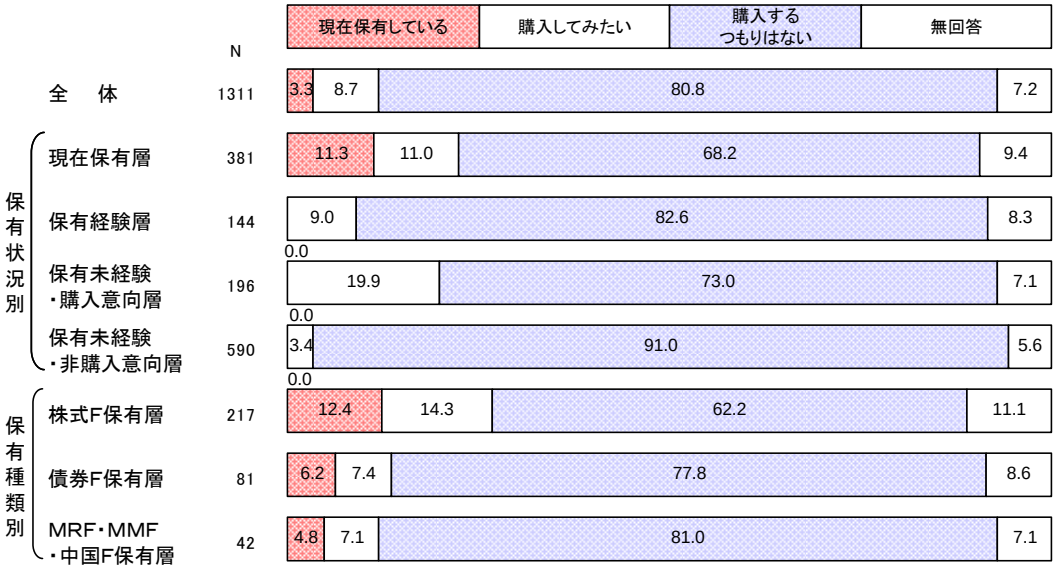
投資信託保有状況別でみると、現在保有層では「現在保有している」が 11.3%となっている。保有未経験・購入意向層では、「購入してみたい」が 19.9%と他層よりも高い。

投資信託保有種類別でみると、「現在保有している」「購入してみたい」のいずれも、高い順に株式ファンド保有層、債券ファンド保有層、ＭＲＦ・ＭＭＦ・中期国債ファンド保有層の順となっている。

【不動産投信への興味／基本軸１（単数回答）】



【不動産投信への興味／基本軸２（単数回答）】



④　ベンチャーファンドへの興味

上場投資信託のうちベンチャーファンドへの興味については、「現在保有している」は0.7%、「購入してみたい」は7.4%で、ＥＴＦ、不動産投信のうち、最も低くなった。

性別でみると、「購入してみたい」で男性(9.1%)が女性(5.5%)をやや上回るが、特に大きな違いはみられない。

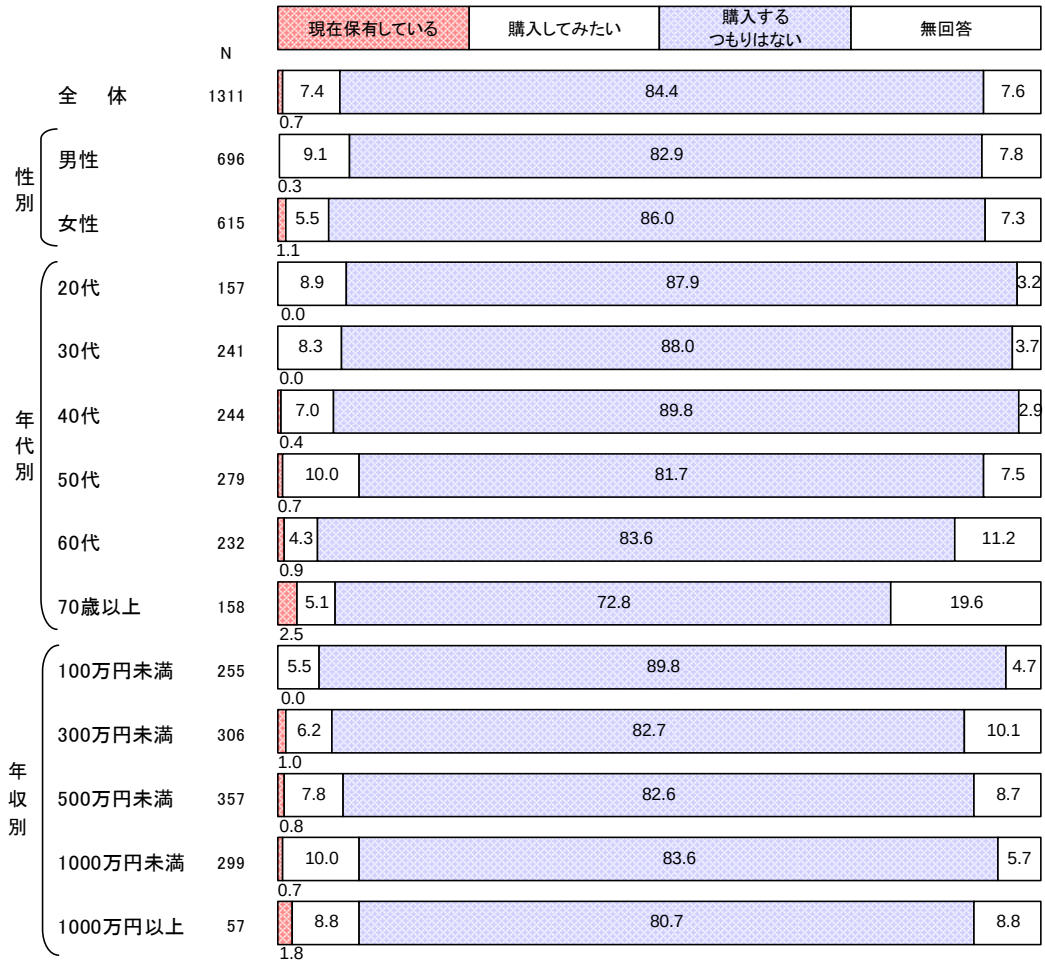
年代別でみると、「現在保有している」は70歳以上で2.5%、「購入してみたい」は50代で10.0%と他の年代に比べて高い。

年収別でみると、「購入してみたい」が概ね年収が上がるにつれて高くなっている。

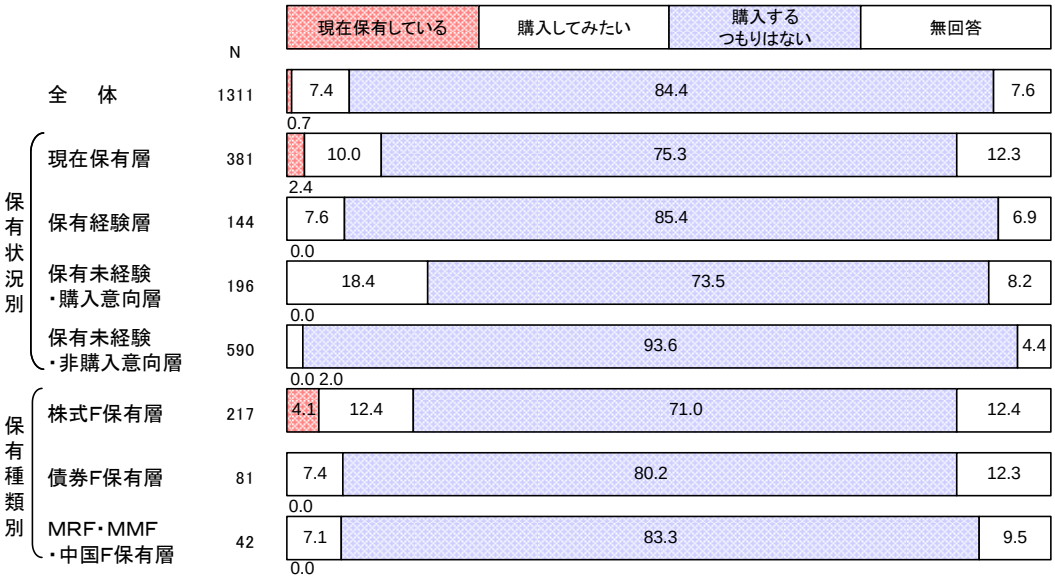
投資信託保有状況別でみると、現在保有層では「現在保有している」が2.4%となっている。保有未経験・購入意向層では、「購入してみたい」が18.4%と他層よりも高い。

投資信託保有種類別でみると、株式ファンド保有層で「現在保有している」が4.1%、「購入してみたい」が12.4%と他層に比べて高い。

【ベンチャーファンドへの興味／基本軸１(単数回答)】



【ベンチャーファンドへの興味／基本軸２（単数回答）】



（８）ＥＴＦ・不動産投信税制の認知

ＥＴＦ・不動産投信税制の認知状況については、「収益分配金等の税率が 10%に軽減」が 12.1%、「売買損は確定申告で３年の繰越控除が可能」が 10.5%、「有利になったことは知っている」が 48.8%であった。

性別でみると、「収益分配金等の税率が 10%に軽減」は男性の方が女性よりも高い。

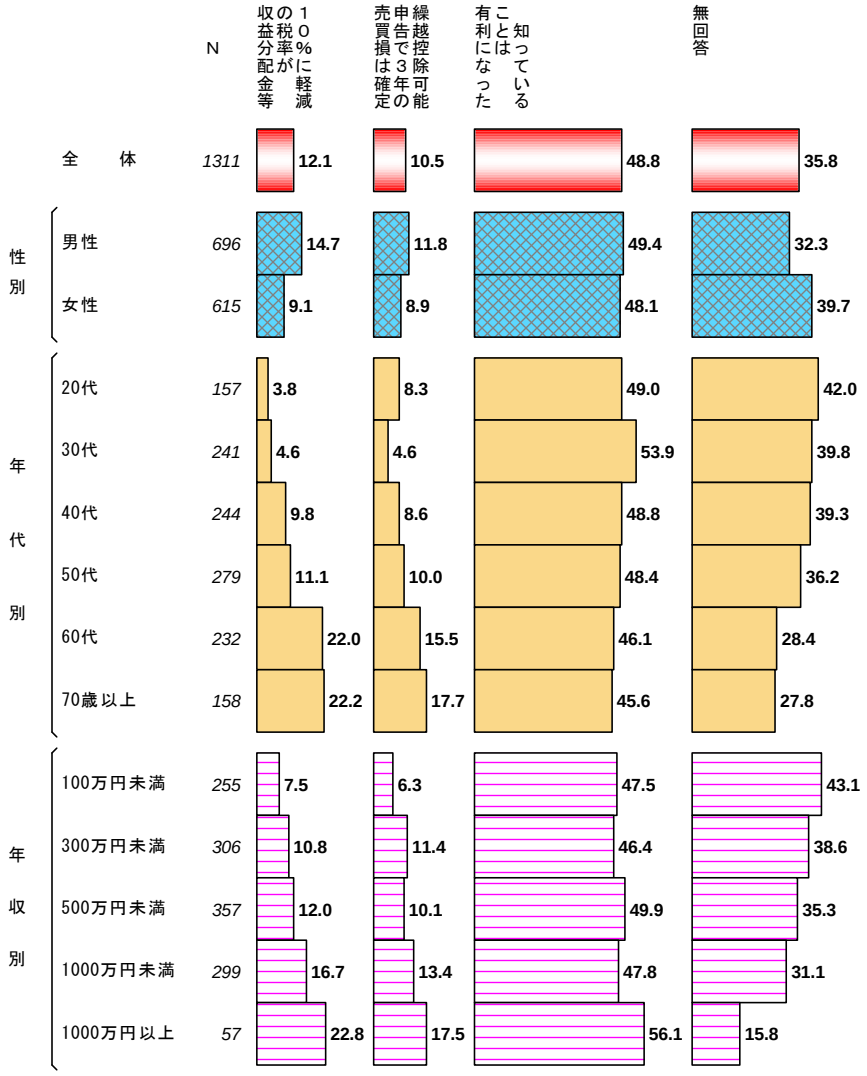
年代別でみると、２項目とも概ね年代が上がるにつれて高くなっている。

年収別でも、２項目とも概ね年収が上がるにつれて高くなっている。

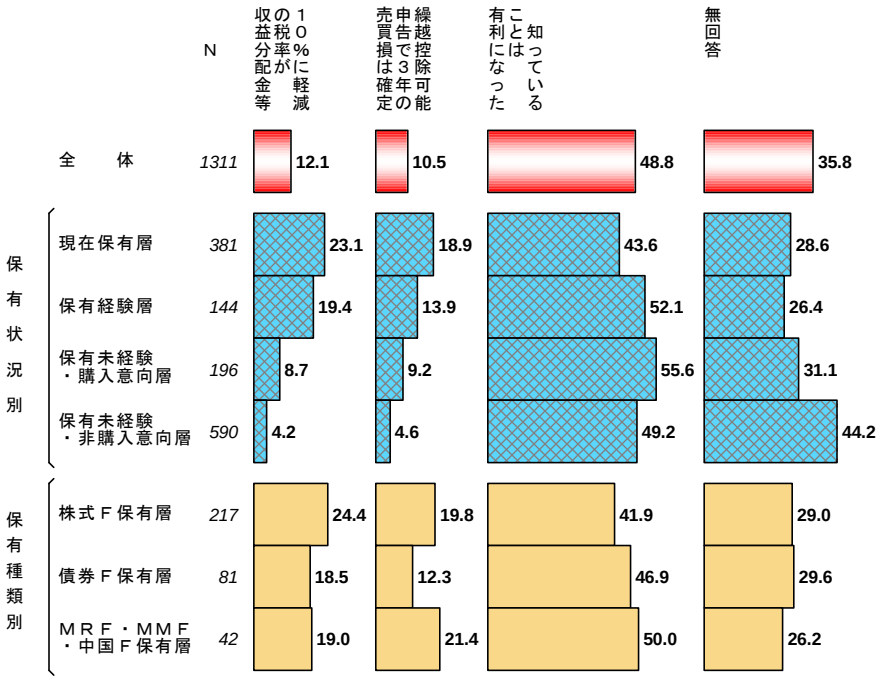
投資信託保有状況別でみると、２項目ともに現在保有層、保有経験層、保有未経験・購入意向層、保有未経験・非購入意向層の順で認知率が高くなっている。

保有種類別では、「有利になったことは知っている」は低い順に株式ファンド保有層、債券ファンド保有層、ＭＲＦ・ＭＭＦ・中期国債ファンド保有層となっている。

【ＥＴＦ・不動産投信税制の認知／基本軸１（重複回答）】



【ＥＴＦ・不動産投信税制の認知／基本軸２（重複回答）】



９．インターネットによる金融取引状況（回答者全体）

（１）インターネットによる金融取引経験

インターネットによる金融取引経験については、「ある」が 20.6%、「利用経験はないが今後行いたい」が 15.9%となっている。

性別でみると、「ある」は男性が女性よりも高く、女性では「利用経験がなく今後も利用意向なし」が 65.0%と男性の 54.3%を大きく上回る。

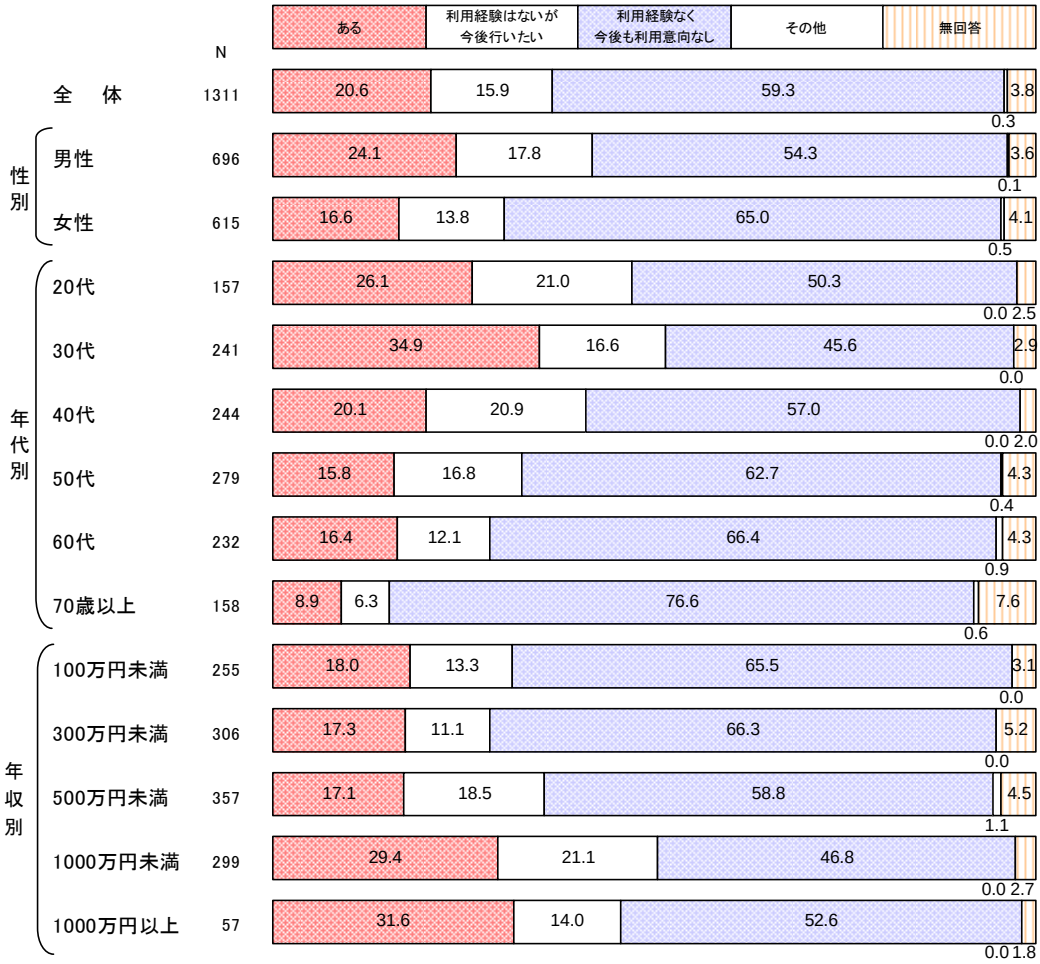
年代別でみると、30 代で「ある」が 34.9%と最も高く、それ以降は年代が高くなるにつれて低下する。

年収別でみると、1000 万円未満と 1000 万円以上では「ある」が 30%程度となっており、1000 万円未満では「利用経験はないが今後行いたい」が最も高く、21.1%となっている。

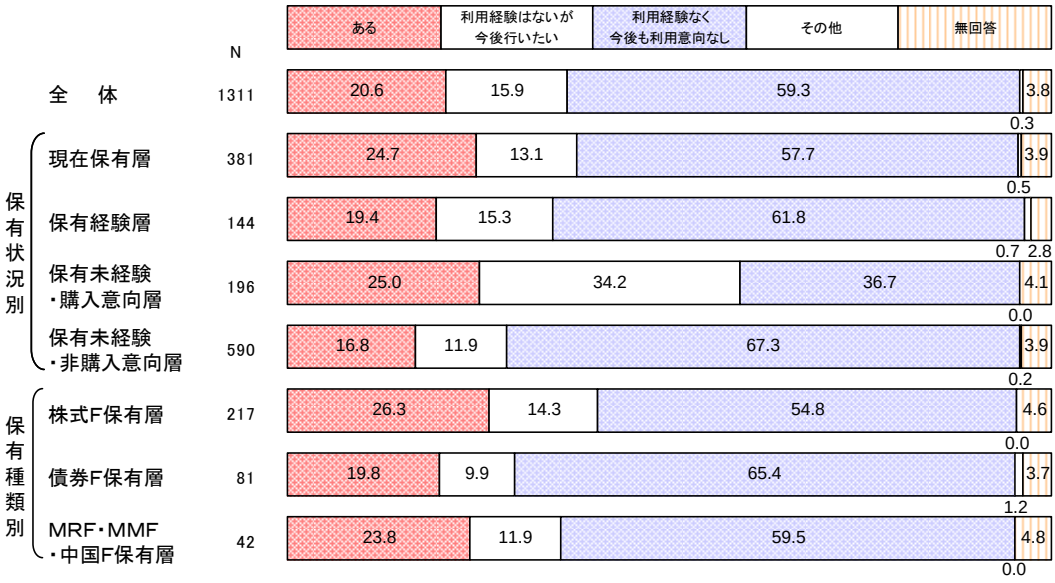
投資信託保有状況別でみると、保有未経験・購入意向層で「利用経験はないが今後行いたい」が 34.2%と他層に比べて高くなっている。

投資信託保有種類別では、株式ファンド保有層で「ある」「利用経験はないが今後行いたい」ともに他層に比べて高い。

【インターネットによる金融取引経験／基本軸１（単数回答）】



【インターネットによる金融取引経験／基本軸２（単数回答）】



（２）インターネット取引経験のある金融商品（インターネット取引経験者）

インターネットによる金融取引意向がある人に対し、取引を行ったことがある金融商品について尋ねたところ、「株式・国債・公債・社債・転換社債」が 64.4%、「普通預貯金」が 45.9%、「定期預金・外貨預金」が 21.9%、「損保・生保」が 20.7%、「投資信託」は 8.1%であった。

性別でみると、「株式・国債・公債・社債・転換社債」では男性が 68.5%、女性が 57.8%と男性が上回っているほかは、大きな違いはみられない。

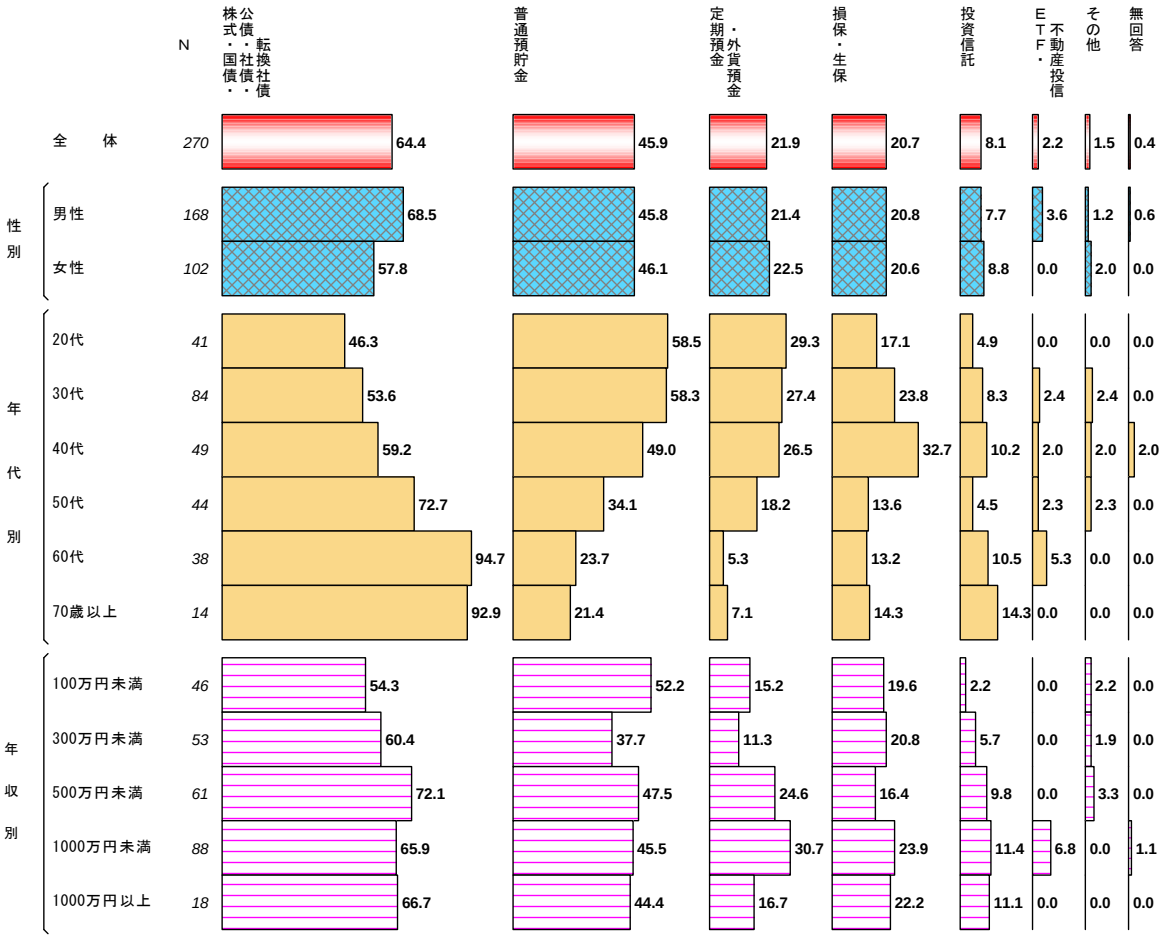
年代別でみると、「株式・国債・公債・社債・転換社債」は年代が上がるほど高くなり、逆に「普通預貯金」「定期預金・外貨預金」では年代が低いほど高くなる傾向がみられる。「生保・損保」は 30 代、40 代を中心に高い。

年収別でみると、500 万円未満で「株式・国債・公債・社債・転換社債」が他層に比べて高く、「定期預金・外貨預金」は 500 万円未満、1000 万円未満で高い。「投資信託」は年収が上がるにつれて高くなっている。

投資信託保有状況別では、「投資信託」のインターネット取引は、現在保有層で 19.1%、保有経験層で 10.7%となっている。

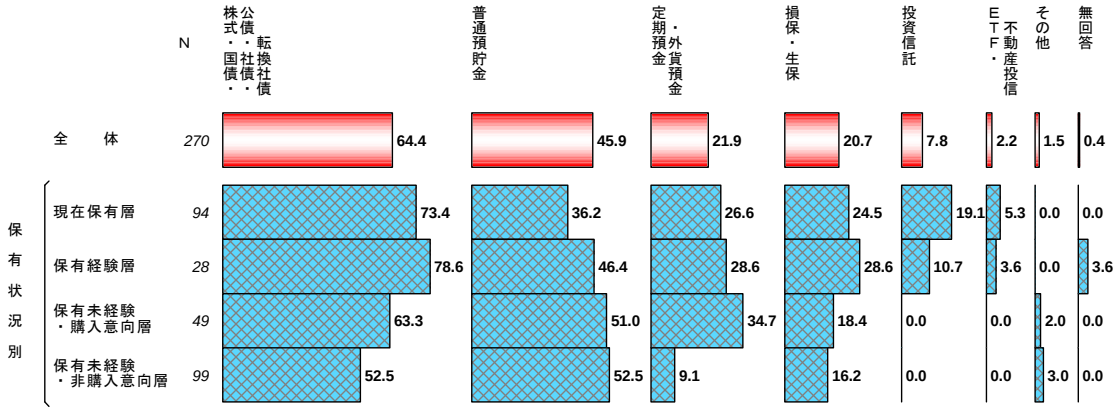
【インターネット取引経験のある金融商品／基本軸１（重複回答）
－インターネット取引経験者】

※Ｎ数（サンプル数）が少ない項目については、データをみる際に注意が必要。



【インターネット取引経験のある金融商品／基本軸２（重複回答）
－インターネット取引経験者】

※Ｎ数（サンプル数）が少ない項目については、データをみる際に注意が必要。



（３）インターネット取引意向のある金融商品（インターネット取引意向者）

インターネットによる金融取引意向がある人に対し、取引を行ってみたい金融商品について尋ねたところ、「株式・国債・公債・社債・転換社債」が 72.7%、「普通預貯金」が 33.0%、「定期預金・外貨預金」が 25.4%、「投資信託」は 11.5%であった。

性別でみると、「株式・国債・公債・社債・転換社債」は男性が女性よりも高く、「普通預貯金」「生保・損保」は女性の方が高い。

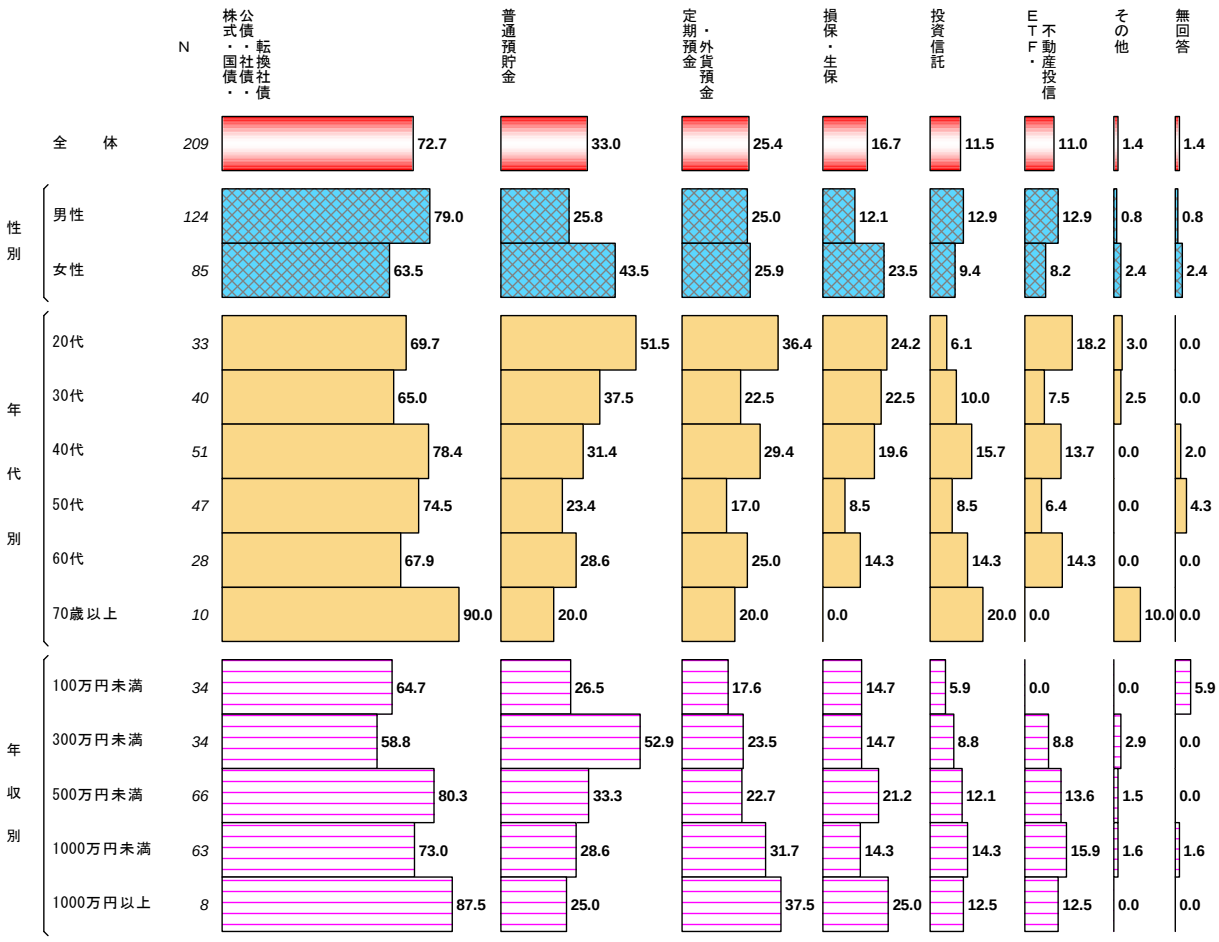
年代別でみると、「普通預貯金」は概ね年代が低いほど高くなる傾向がみられる。

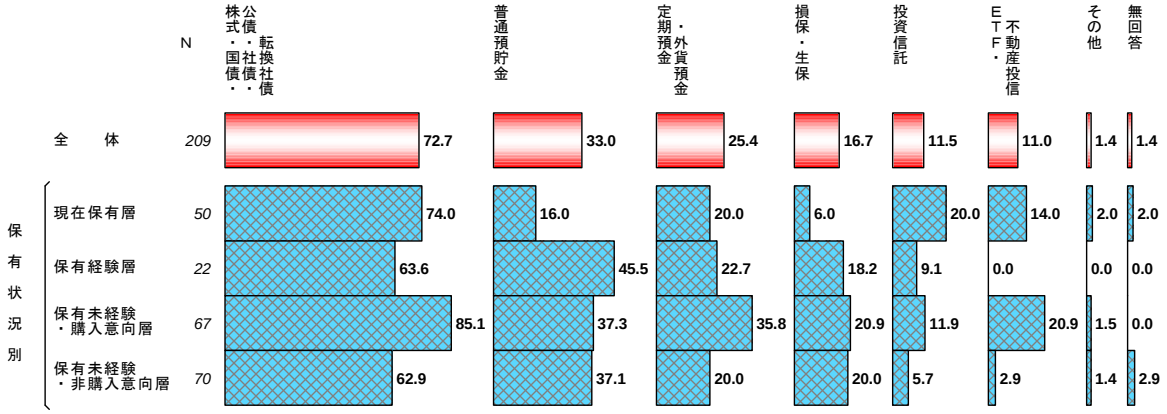
年収別でみると、「普通預貯金」は年収が高い層で低く、「株式・国債・公債・社債・転換社債」は年収が比較的高い層で高い傾向がみられる。

投資信託保有状況別では、「投資信託」のネット取引意向は、現在保有層で 20.0%となっている。

【インターネットによる取引意向のある金融商品／基本軸１（重複回答）
ーインターネット取引意向者】

※Ｎ数（サンプル数）が少ない項目については、データをみる際に注意が必要。



【インターネットによる取引意向のある金融商品／基本軸２（重複回答）
－インターネット取引意向者】

※Ｎ数（サンプル数）が少ない項目については、データをみる際に注意が必要。